Ⅲ　調査の概要

1　範囲確認調査（第5・6図，第2表）

期間は，平成21年5月11日～6月4日まで実施した。試掘坑（TP）は，西九州自動車道建設工事に伴う調査対象地域に，東からTP5（25m×2m＝50㎡），TP4（24m×2m＝48㎡），TP1（15m×2m＝30㎡），TP2（25m×2m＝50㎡），TP3（24m×2m＝48㎡），TP6（25m×2m＝50㎡）の順に6箇所，計276㎡を設定した。そのうち，TP3・4は東西方向に，それ以外は南北方向にTPを配置し，表土から人力による掘削を行った。

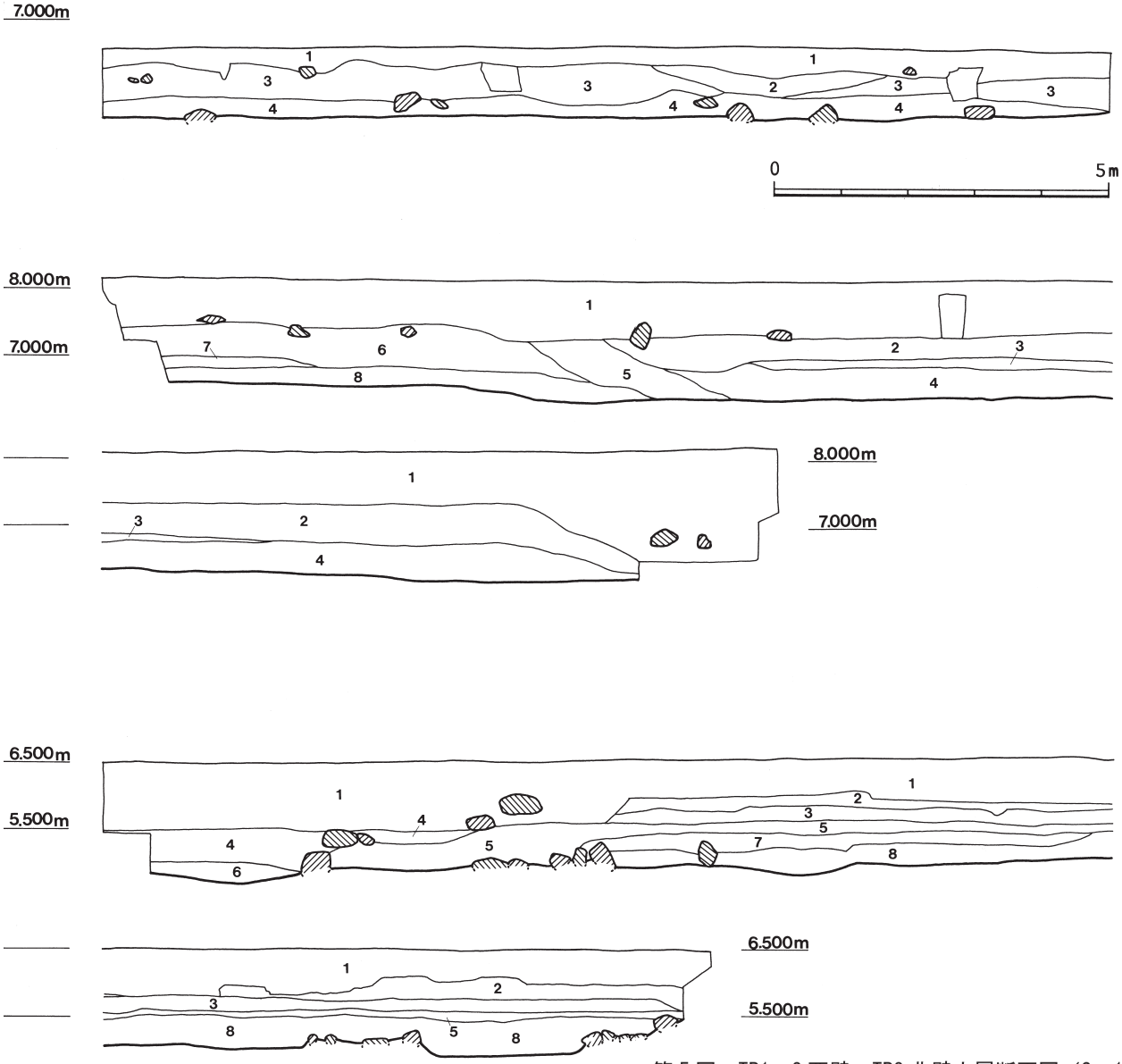
層位については，TP1とTP3～5のⅠ・Ⅱ層の層序が共通する。内訳は，Ⅰa層が耕作土層，Ⅰb層が圃場整備客土層，Ⅱ層が旧圃場耕作土層である。Ⅰ・Ⅱ層の中には，周辺には昭和30年代まで炭鉱があったため，整地目的で使用されたボタもみられる。また，Ⅲ層は旧河道埋土層であるが，TP2・6については旧圃場耕作土層を検出しなかったため，Ⅱ層が旧河道埋土層となる。さらに，TP3のⅣ・Ⅴ層が確認でき，Ⅳ層は旧河道埋土層，Ⅴ層はⅢ層によって切られる砂質土層である。

設定した6箇所のTPでは，全てにおいて旧今福川と思われる河道の跡を検出した。現在の今福川は，本遺跡の東部に隣接しており，河川改修によって平地部に出た後，海までほぼ直進するルートを取っている。ただ，改修以前の河道は，当該遺跡付近で大きく西側に彎曲していた。当地では，過去に河川の氾濫が幾度もあり，それによって流路が変化していったため，取り残されて埋没していった旧河道跡の存在が複数考えられた。

遺物については，量的差異はあるものの旧河道埋土層を中心に全てのTPから出土した。器種は，弥生土器，土師器の壺・埦・高坏，須恵器の蓋坏，貿易陶磁器，滑石製二次製品等合計約1,500点になった。時代の内訳は，縄文時代，弥生時代，古墳時代，古代，中世，近世で，そのうち，弥生時代～古墳時代の遺物が全体の3分の2を占める。旧河道埋土層であるがゆえ，遺物の多くは磨滅の激しいものが多い。ただし，TP1・TP3からは弥生時代終末～古墳時代にかけての遺物が集中的に出土しており，その要因が，TPの設置場所周辺の環境（近くに遺構面が存在するなど）によるものなのか，もしくは旧河道の時代の相違によるものなのかは，TPによる調査の限界があり，当該調査においては断定できなかった。

TPごとの出土遺物について触れると，TP1の遺物は**1～24**である。**1～19**は土師器で，**1・2**が甕，**3～6**が壺の口縁部，**7～13**が埦の口縁部，**14**が埦の底部，**15～17**が高坏の坏底部，**18**が坏身の口縁部，**19**が手捏土器の底部と思われる。**20～23**は須恵器で，**20・21**が坏身の口縁部，**22**が高坏の口縁部，**23**が瓶の胴部である。**23**は二沈線間にタタキ目と穿孔が施され，基部に波状文を呈する。**24**は滑石製二次製品と思われるが，器種は不明。中央に穿孔が施される。TP2の遺物は**25**と**26**で，**25**は土師器で高坏の脚端部，**26**は須恵器で坏蓋の口縁部である。TP3の遺物は**27**で，土師器の高坏の坏底部である。

なお，遺構については当該調査では残念ながら確認できなかった。



7.000m

TP1 西壁土層

1	耕作土，造成基盤層，客土層		
2	2.5Y 4/1	黄灰色粘質土	しまりが強く，粘性が強い。礫層部分は，こぶし大の円礫を多く含み，下部には鉄分の沈着が見られる。
3	10BG 5/1	青灰色粘質土	しまりが強く，粘性が強い。マンガンによる管状の沈着が見られ，植物遺体を多く含む。南端の灰色味の強い部分では，とくにマンガン・鉄分の沈着が強く，グライ化があらわれる。また，砂質土や砂が互相に重なっている。
4	10BG 4/1	暗青灰色細砂	しまりが弱く，少し粘性がある。こぶし大の円礫～φ30 cm円礫を含む。特にφ4～8m あたりの黒色がやや強く，植物遺体を含んだ粗砂では，集中して遺物が出土。

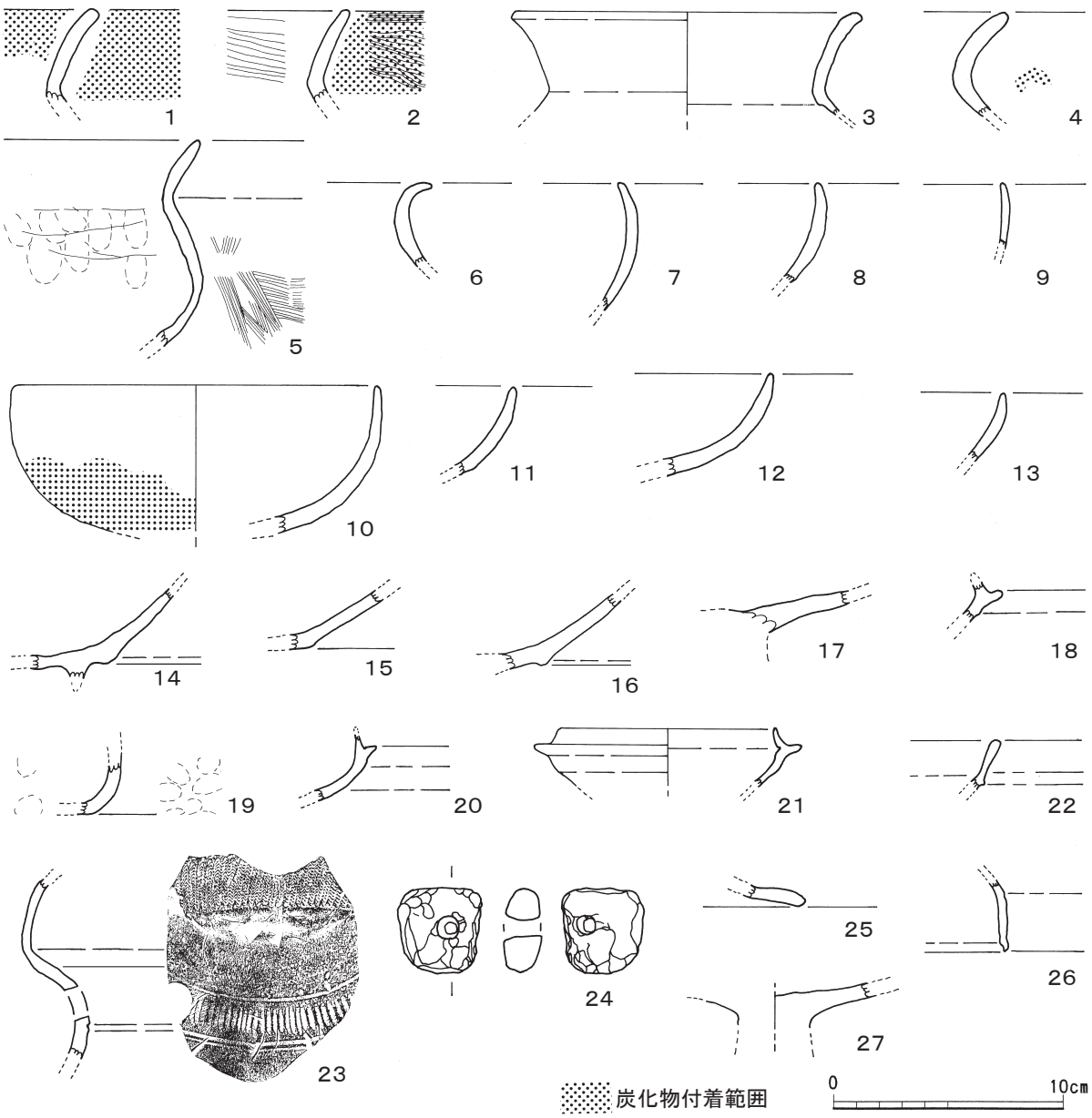
TP2 西壁土層

1	耕作土，造成基盤層，客土層		
2	礫層		φ1～30 cm大の円礫が多くを占める。
3	2.5Y 4/2	暗灰黄色粘質土	粘性弱く，しまり強い。2.5Y 4/6 オリーブ褐色粘質土をブロック状に含む。
4	2.5Y 4/6	オリーブ褐色砂礫層	φ1 cm～こぶし大の円礫が多くを占める。
5	2.5Y 4/2	暗灰黄色粘質土	粘性弱く，しまり強い。
6	礫層		φ5～30 cm大の円礫が多くを占める。
7	2.5Y 3/2	黒褐色粘質土	粘性弱く，しまり強い。2.5Y 4/6 オリーブ褐色粘質土をブロック状に含む。
8	2.5Y 4/6	オリーブ褐色砂礫層	φ1～5 cm大の円礫が多くを占める。

TP3 北壁土層

1	耕作土，造成基盤層，客土層		
2	10BG 5/1	暗灰色粘質土	しまりはややあり，粘性が強い。層の下部にはマンガンの沈殿がみられ，ややオリーブ色を呈する。管状の鉄分の沈着も見られる。旧水田層と考えられる。
3	7.5YR 4/1	褐灰色砂礫土	φ10 cm以下の小円礫を多く含み，まれにφ20 cm大の礫を含む。3 層と 5 層の間に灰色細砂（下部に鉄分沈着）や黒色細砂（下部に鉄分沈着）が見られる。
4	10BG 4/1	暗青灰色粘質土	しまりがやや強く粘性はややある。人頭大～φ80 cm程度の円礫を多く含む。ボタも少量含む。
5	10BG 5/1	青灰色粘質土	しまりはややあり，粘性もやや強い。管状に鉄分が沈着する。φ4.5m 付近で土器片が出土。
6	10BG 3/1	暗青灰色砂礫土	φ10 ～ 20 cm大の円礫を含む。φ3m 地点にかけて礫が多く，範囲が狭いため，切り合い等は確認できなかった。
7	2.5Y 5/3	黄褐色砂質土	しまりがやや強く，粘性がある。
8	2.5Y 5/1	黄灰色砂質土	しまりがやや強く，粘性がある。7 層より砂質が強い。西端は小円礫を間にはさみ，ひとつの堆積と考えられるが，立ち上がりは不明。

第 5 図　TP1～2 西壁・TP3 北壁土層断面図（S＝1／100）



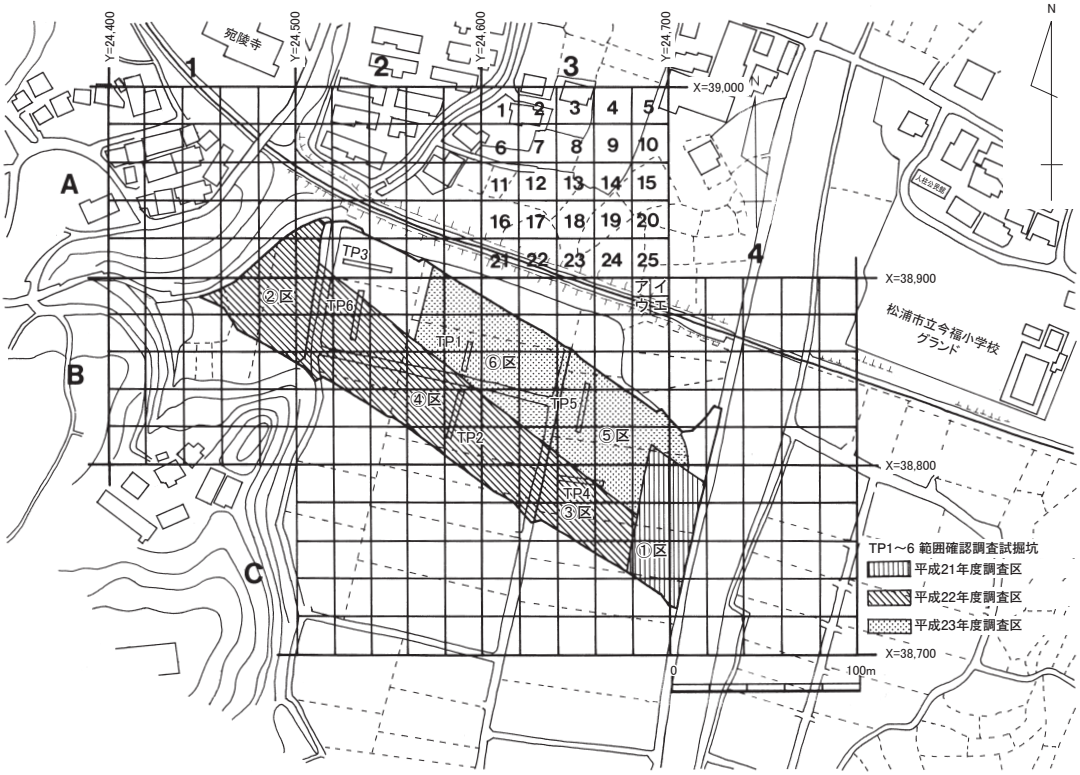
第 6 図　TP1～3 出土遺物（S＝1／3）

番号	種類	器種	層位	調整		焼成	色調		胎土	備考
				外面	内面		外面	内面		
1	土師器	甕	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	にぶい橙色	橙色	やや粗雑　雲母・長石・赤色粒子・白色粒子	煤付着
2	土師器	甕	Ⅲ	ハケ目	ハケ目	やや不良	にぶい橙色	にぶい橙色	やや粗雑　長石・赤色粒子	煤付着
3	土師器	壺	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑　雲母・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	
4	土師器	壺	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑　雲母・長石・石英・白色粒子・赤色粒子	煤付着
5	土師器	壺	Ⅲ	ナデ消し	ナデ/指圧痕	やや良好	橙色	にぶい橙色	やや精緻　雲母・赤色粒子・白色粒子	
6	土師器	壺	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	にぶい橙色	橙色	やや粗雑　雲母・赤色粒子	
7	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	赤色	赤色	やや精緻　雲母・長石・石英・赤色粒子・黒曜石	
8	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや精緻　雲母・長石・赤色粒子・白色粒子	
9	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや精緻　雲母・長石・赤色粒子・白色粒子	
10	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや精緻　雲母・赤色粒子	煤付着
11	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	赤色	赤色	やや精緻　雲母・長石・黒曜石・赤色粒子	
12	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや粗雑　雲母・石英・赤色粒子	
13	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや粗雑　雲母・長石・赤色粒子	
14	土師器	埦	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	にぶい橙色	橙色	やや粗雑　雲母・長石・赤色粒子	
15	土師器	高坏	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	にぶい橙色	やや精緻　赤色粒子	
16	土師器	高坏	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	にぶい橙色	にぶい黄橙色	やや粗雑　雲母・石英・赤色粒子	
17	土師器	高坏	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	明黄褐色	やや粗雑　雲母・白色粒子・赤色粒子・長石	
18	土師器	坏身	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	灰白色	橙色	やや精緻　雲母・石英・白色粒子・長石	
19	土師器	手捏土器	Ⅲ	指圧痕	指圧痕	やや良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや精緻　雲母・赤色粒子	
20	須恵器	坏身	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	明青灰色	青灰色	やや粗雑　白色粒子	
21	須恵器	坏身	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	灰白色	灰色	やや精緻　白色粒子	
22	須恵器	坏身	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや精緻　石英・白色粒子	
23	須恵器		Ⅲ	ナデ/穿孔	ナデ/穿孔	やや良好	灰色	灰色	精緻　白色粒子	上部に波状文 下部にタタキ目

番号	器種	石種	層位	法量（cm）			重さ（g）	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
24	二次加工品	滑石	Ⅲ	36	35	16	38.93	穿孔あり

番号	種類	器種	層位	調整		焼成	色調		胎土	備考
				外面	内面		外面	内面		
25	土師器	高坏	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑　雲母・赤色粒子	
26	須恵器	坏蓋	Ⅲ	ナデ	ナデ	やや良好	灰色	明青灰色	やや精緻　白色粒子	
27	土師器	高坏	Ⅵ	ナデ	ナデ	やや良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	やや精緻　雲母・黒曜石	

第 2 表　TP1～3 出土遺物観察表



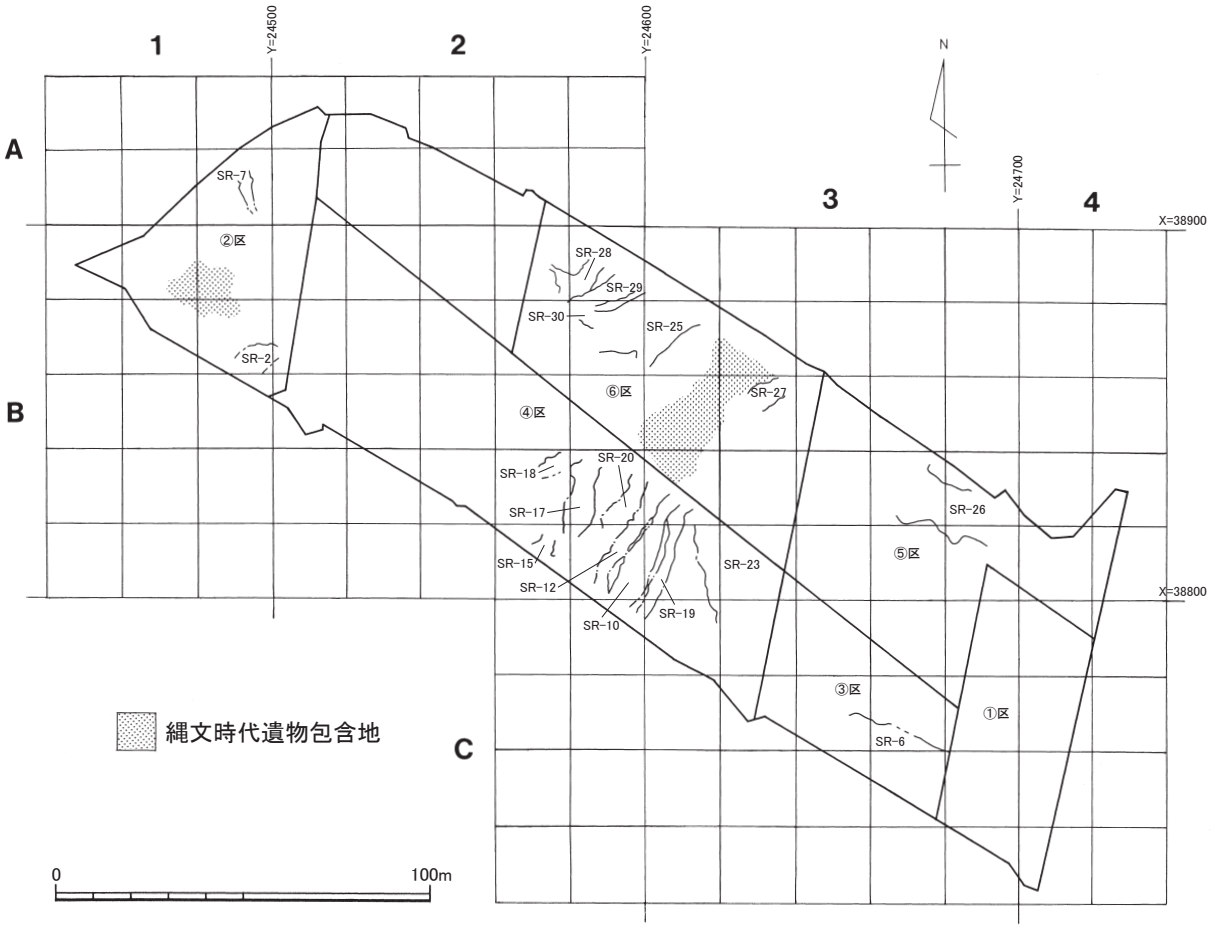
第７図　今福遺跡発掘調査調査区及びグリッド配置図（S=1/4,000）

２　緊急発掘調査（第３表）

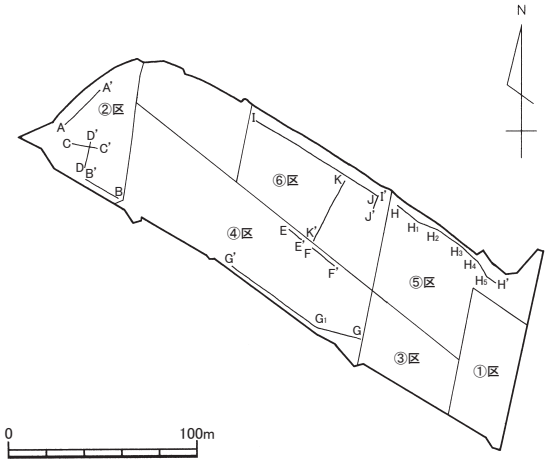
緊急発掘調査は，まず座標系に合わせて南北を主軸とする 100m方眼の大グリッドを調査区に設定し，東西を1 ～ 4，南北をＡ～Ｃと符号した。 大グリッド内は 20m方眼で区画して中グリッドを設定，1 ～ 25 の番号を付した。さらに中グリッド内は 10m方眼で小グリッドを設け，ア～エと符号した。また調査の便宜上，①～⑥区に地区分けした。現圃場の耕作土と整地客土層，旧河道跡内堆積礫層は重機で掘削した。以下に平成 21 年度から平成 23 年度までの調査のあらましをまとめた。遺構と遺物の詳細は，次章をご覧頂きたい。

平成21年度 範囲確認調査	面積：　276㎡	期間：平成21年 5月11日 ～ 平成21年 6月 4日	
	検出遺構：旧河道跡等		
	出土遺物点数：約1,600点，コンテナ8箱		出土遺物時代：縄文時代 ～ 近世
平成21年度 緊急発掘調査	面積：1,800㎡	期間：平成21年10月16日 ～ 平成22年 3月16日	
	検出遺構：旧河道跡1条(SR-5)等		
	出土遺物点数：約1,200点，コンテナ6箱		出土遺物時代：縄文時代 ～ 近世
平成22年度 緊急発掘調査	面積:10,300㎡	期間：平成22年 5月18日 ～ 平成23年 3月16日	
	検出遺構：旧河道跡24条(SR-1～SR-24)，縄文時代後期遺物包含層等		
	出土遺物点数：約29,000点，コンテナ145箱		出土遺物時代：縄文時代 ～ 近世
平成23年度 緊急発掘調査	面積：6,600㎡	期間：平成23年 6月15日 ～ 平成24年 2月20日	
	検出遺構：旧河道跡6条(SR-25～SR-30)，縄文後～弥生前期遺物包含層等		
	出土遺物点数：約23,000点，コンテナ115箱		出土遺物時代：縄文時代 ～ 近世

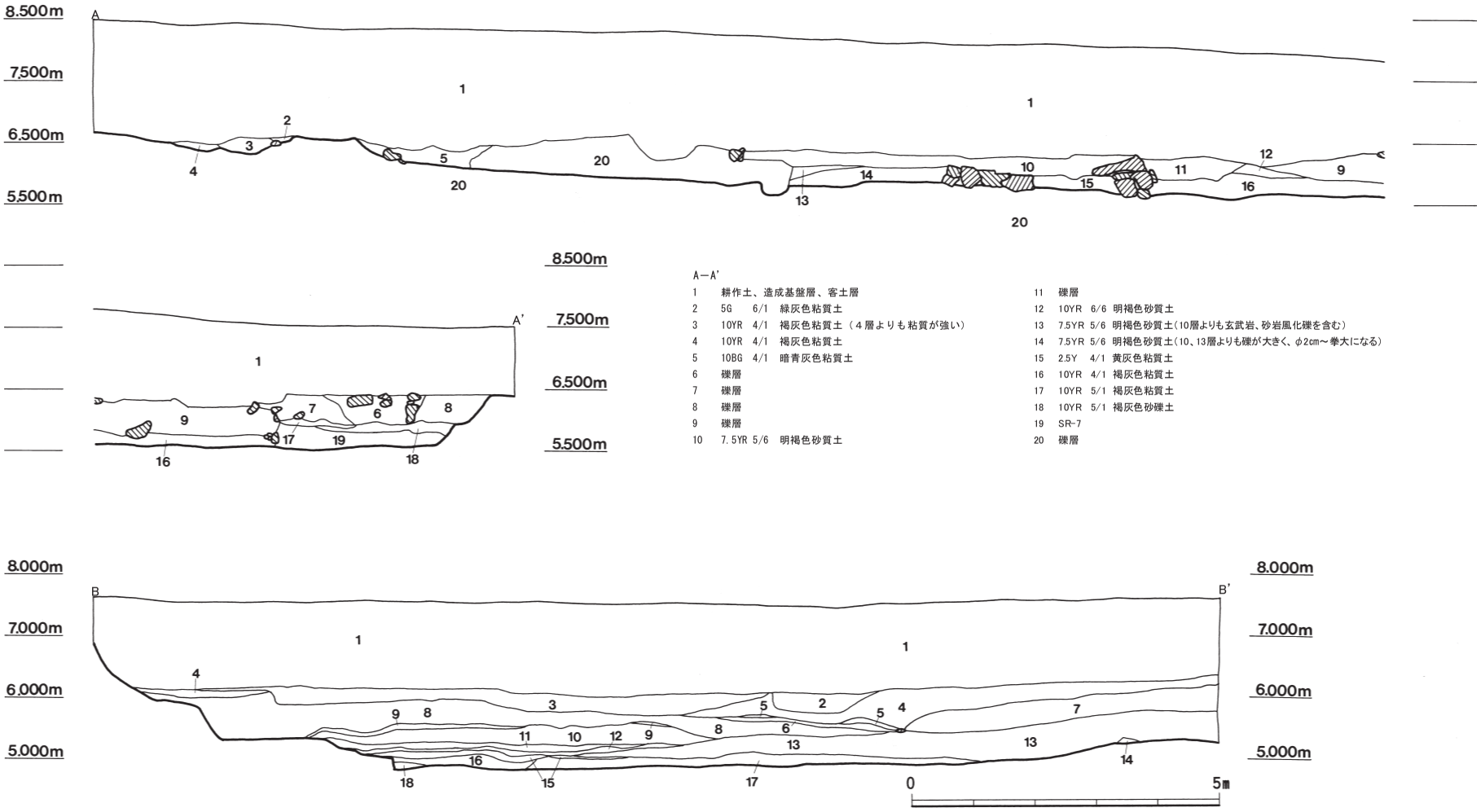
第３表　平成 21～23 年度今福遺跡発掘調査概略



第 8 図　今福遺跡縄文時代遺物包含地・主要旧河道跡配置図（S=1/2,000）



第 9 図　土層図位置図（S=1/4,000）



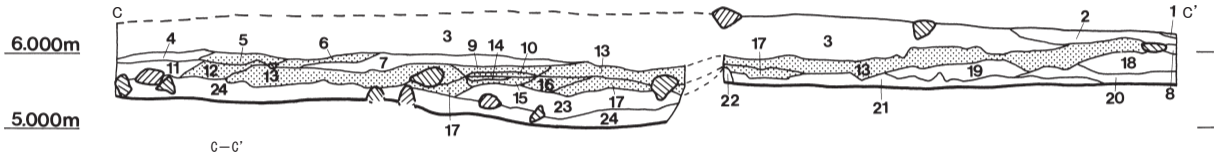
A－A'

1　耕作土、造成基盤層、客土層
2　5G　6/1　緑灰色粘質土
3　10YR　4/1　褐灰色粘質土（４層よりも粘質が強い）
4　10YR　4/1　褐灰色粘質土
5　10BG　4/1　暗青灰色粘質土
6　礫層
7　礫層
8　礫層
9　礫層
10　7.5YR 5/6　明褐色砂質土
11　礫層
12　10YR　6/6　明褐色砂質土
13　7.5YR 5/6　明褐色砂質土（10層よりも玄武岩、砂岩風化礫を含む）
14　7.5YR 5/6　明褐色砂質土（10、13層よりも礫が大きく、φ2cm～拳大になる）
15　2.5Y　4/1　黄灰色粘質土
16　10YR　4/1　褐灰色粘質土
17　10YR　5/1　褐灰色粘質土
18　10YR　5/1　褐灰色砂礫土
19　SR-7
20　礫層

B－B'

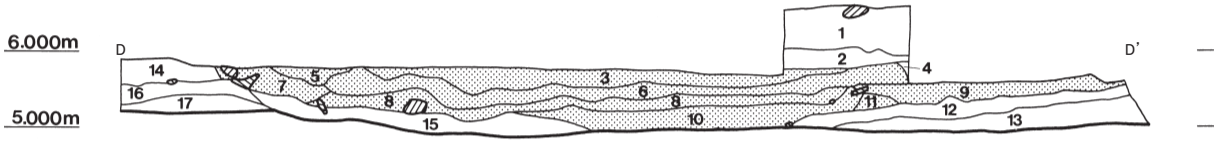
1　耕作土、造成基盤層、客土層
2　5B　5/1　青灰色粘質土
3　SR-2
4　礫層
5　5YR　7/1　明褐色シルト質土
6　5YR　6/1　褐灰色シルト質土
7　2.5Y　5/6　黄褐色砂礫土
8　礫層
9　5G　6/1　緑灰色シルト質土（10層よりも粒子が大きい）
10　5G　6/1　緑灰色シルト質土
11　5G　5/1　緑灰色シルト質土（10層よりも粒子が細かい）
12　5G　4/1　暗緑灰色シルト質土（11層よりも粒子が細かい）
13　7.5YR 4/3　褐色砂礫土
14　5G　5/1　緑灰色粘質土（17層よりも粘性が強い）
15　5G　3/1　暗緑灰色シルト質土（12層よりも粒子が大きい）
16　5YR　4/2　灰褐色砂質土
17　5G　5/1　緑灰色粘質土
18　2.5Y　7/1　灰白色シルト質土

第10図　A-A'間北壁・B-B'間南壁土層断面図（S=1/100）



C－C'

1	10YR 4/2	灰黄褐色砂質土	9	7.5YR 6/4	にぶい橙色砂礫土	17	2.5YR 6/2	灰黄色砂質土
2	10YR 4/2	灰黄褐色粘質土	10	5YR 5/8	明赤褐色砂礫土	18	2.5Y 3/1	黒褐色粘質土
3	礫層		11	7.5YR 6/3	にぶい褐色砂礫土	19	2.5YR 5/2	暗灰黄色粘質土
4	7.5YR 6/3	にぶい褐色砂礫土	12	7.5YR 3/2	黒褐色粘質土	20	10YR 4/2	灰褐色砂礫土
5	7.5YR 5/3	にぶい褐色砂礫土	13	2.5YR 6/2	礫混灰黄色粘質土	21	2.5YR 6/2	灰黄色砂礫土
6	7.5YR 5/4	にぶい褐色砂礫土	14	2.5YR 6/2	灰黄色粘質土	22	2.5YR 5/6	黄褐色粘質土
7	7.5YR 5/8	橙色砂礫土	15	5YR 4/8	赤褐色粘質土	23	7.5YR 6/2	灰褐色粘質土
8	2.5Y 4/1	黄灰色粘質土	16	5YR 4/8	赤褐色砂礫土	24	7.5YR 5/2	灰褐色粘質土

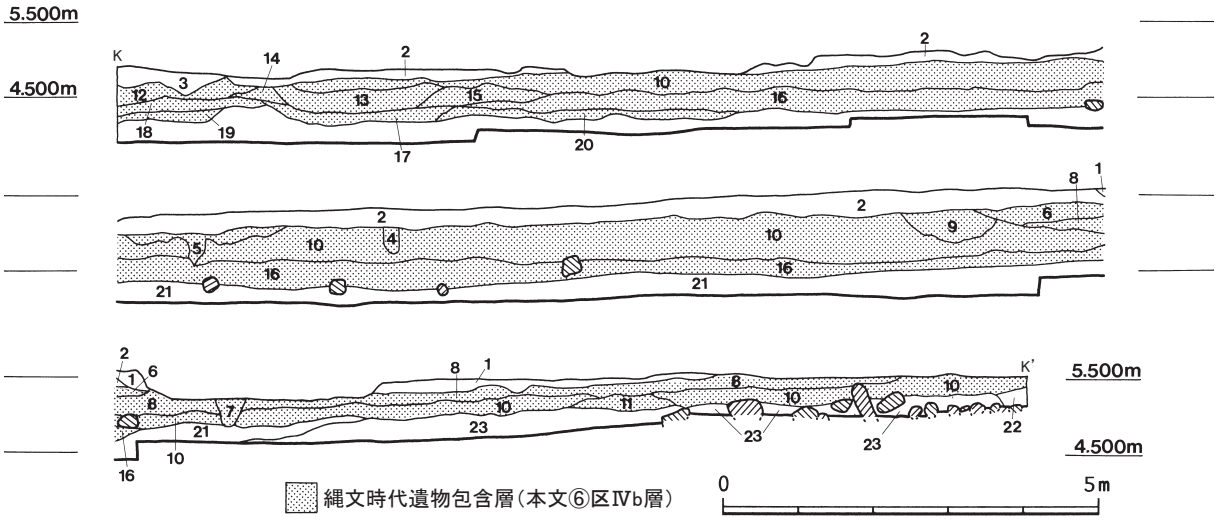


縄文時代遺物包含層（本文②区Ⅲ層）　0　5m

D－D'

1	礫層		7	5YR 5/1	褐灰色砂質土	13	5YR 6/1	小礫混褐灰色粘質土
2	2.5YR 6/2	礫混灰黄褐色粘質土	8	7.5YR 7/1	明褐灰色粘質土	14	10YR 5/8	黄褐色砂礫土
3	2.5YR 6/2	灰黄褐色粘質土	9	2.5YR 6/2	灰黄色砂礫土	15	5YR 6/1	褐灰色砂質土
4	2.5YR 5/6	黄褐色粘質土	10	7.5YR 6/1	褐灰色粘質土	16	10YR 6/8	明黄褐色砂質土
5	5YR 5/8	明赤褐色礫土	11	2.5YR 6/2	灰黄色砂礫土	17	砂岩盤	
6	2.5YR 6/2	灰黄色砂質土	12	5YR 6/1	褐灰色粘質土			

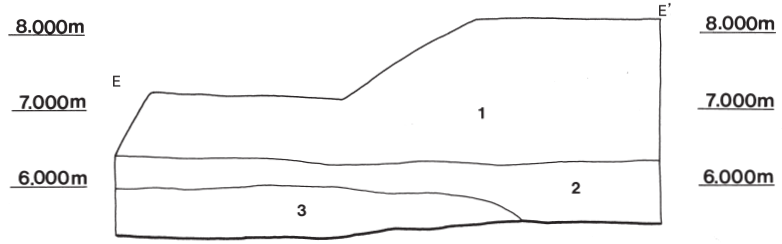
第 11 図　C-C' 間北壁・D-D' 間西壁土層断面図（S=1/100）



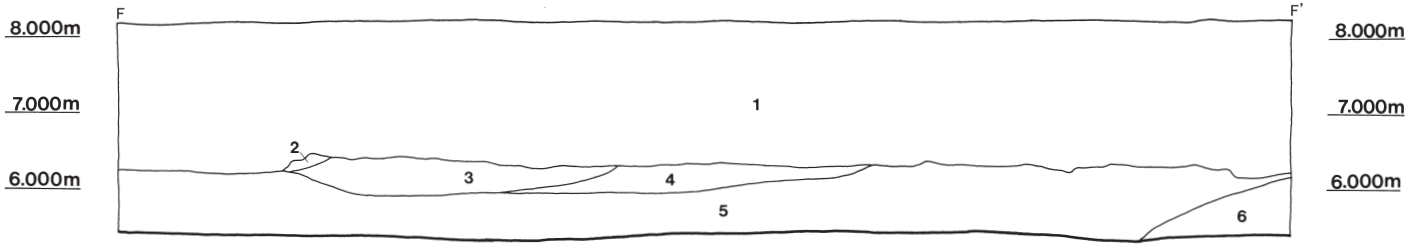
K－K'

1	礫層		9	2.5Y 6/3	にぶい黄色粘質土	17	5PB 5/1	青灰色粘質土
2	10YR 6/2	灰黄褐色粘質土（本文Ⅳa層）	10	10YR 6/3	にぶい黄橙色粘質土	18	5YR 5/1	褐灰色粘質土
3	10BG 5/1	青灰色粘質土（本文Ⅳa層）	11	2.5Y 5/2	暗灰色粘質土	19	5YR 5/1	褐灰色粘質土（18層よりも砂質が強い）
4	2.5Y 5/2	暗灰黄色粘質土	12	5Y 6/1	灰色粘質土	20	7.5YR 6/2	灰褐色粘質土
5	7.5YR 5/2	灰褐色粘質土	13	10YR 6/2	灰黄褐色粘質土	21	N 7/	灰白色粘質土
6	2.5Y 6/3	にぶい黄色粘質土	14	2.5Y 6/2	灰黄色粘質土	22	10YR 5/2	灰黄褐色粘質土
7	10BG 5/1	青灰色粘質土	15	5Y 5/1	灰色粘質土	23	5Y 6/1	灰色粘質土
8	2.5Y 6/4	にぶい黄褐色粘質土	16	2.5Y 6/3	にぶい黄色粘質土			

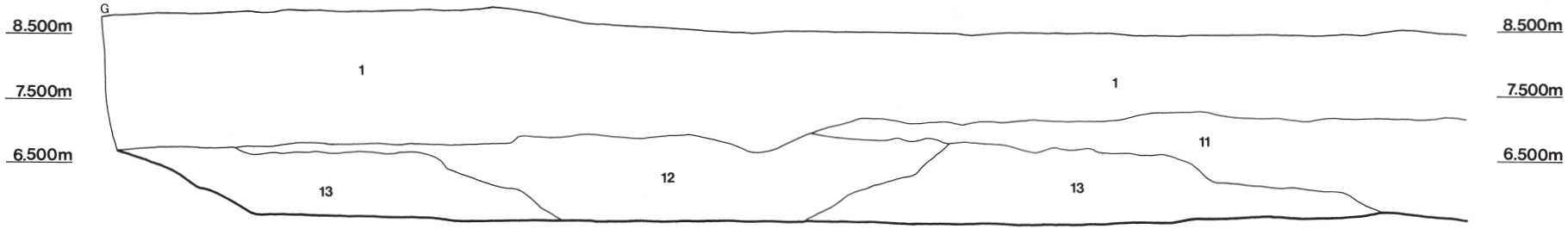
第 12 図　K-K' 間東壁土層断面図（S=1/100）



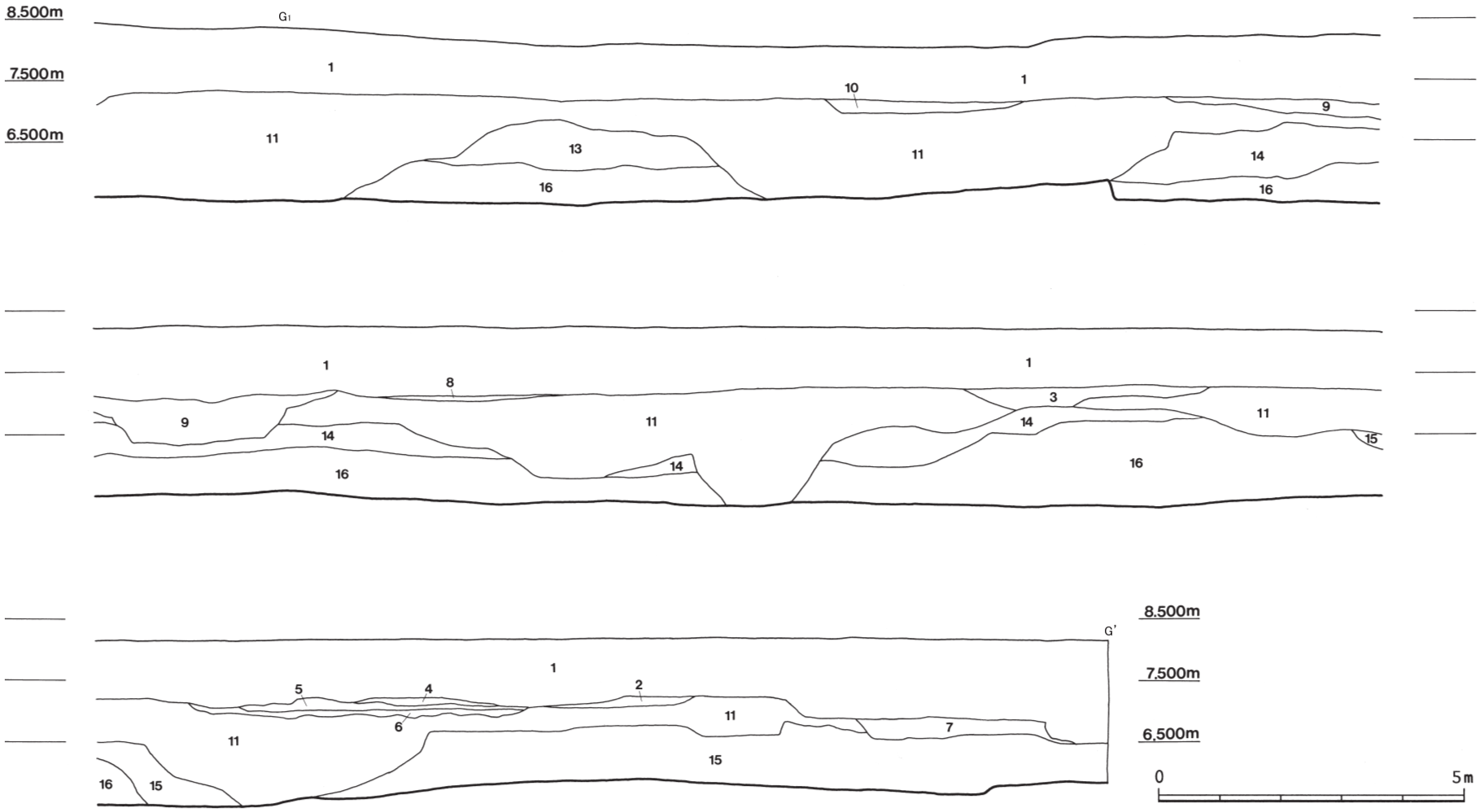
E－E'
1　耕作土、造成基盤層、客土層
2　礫層
3　N　3/　暗灰色粘質土



F－F'
1　耕作土、造成基盤層、客土層
2　10YR　4/1　褐灰色粘質土
3　SR-10
4　SR-19
5　礫層
6　5Y　4/2　灰オリーブ色粘質土



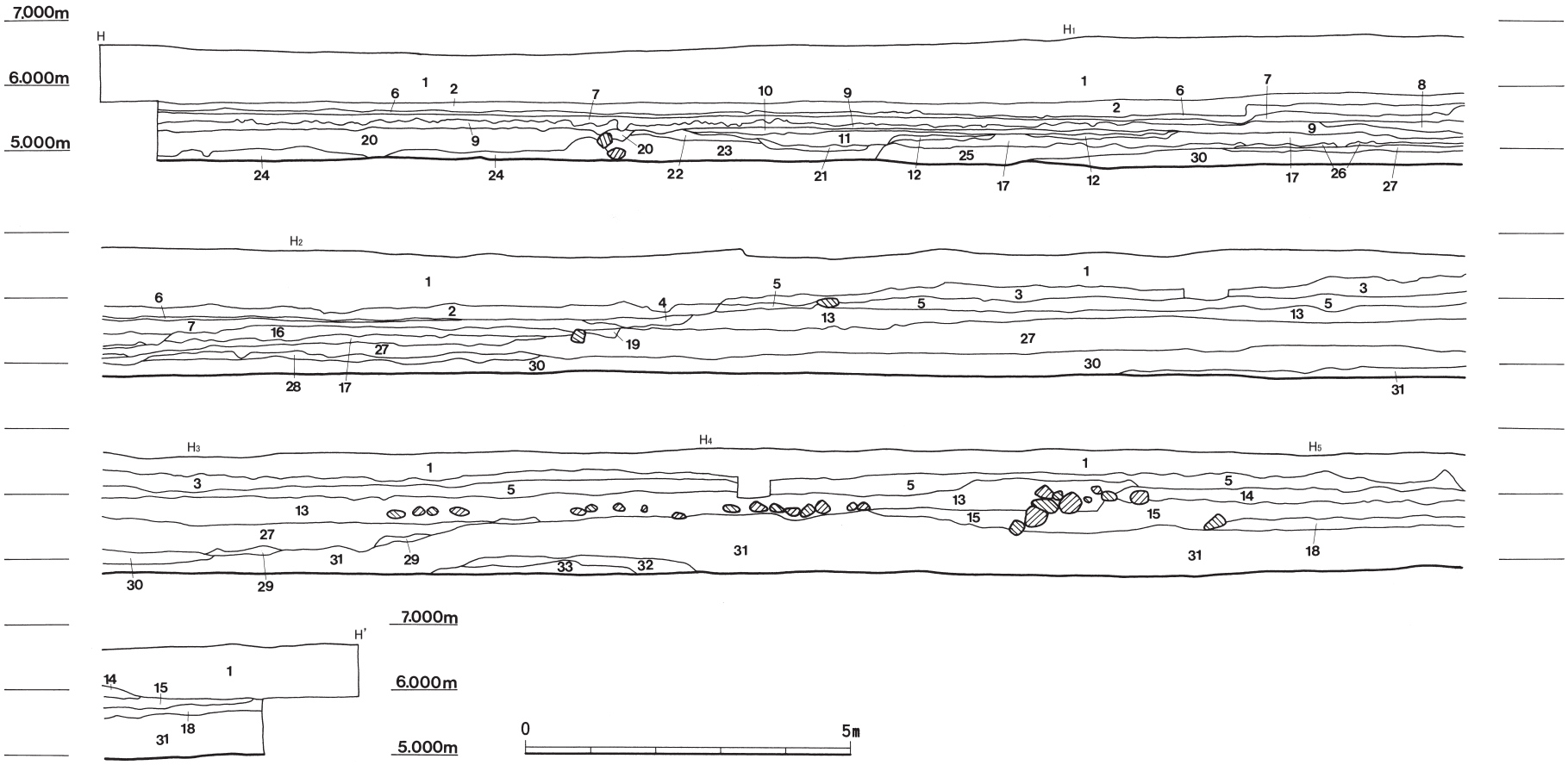
第13図　E－E'間北壁・F-F'間北壁・G-G'間南壁土層断面図（S=1/100）



G－G'

1	耕作土、造成基盤層、客土層	
2	7.5YR 4/1	褐灰色粘質土
3	10YR 5/4	にぶい黄褐色粘質土
4	10YR 4/4	褐色砂礫土
5	10YR 5/2	灰黄褐色砂質土
6	SR-15	
7	SR-16	
8	SR-12	
9	SR-10	
10	SR-19	
11	礫層	
12	礫層	
13	5Y 11/2	灰オリーブ色粘土
14	2.5Y 4/3	オリーブ褐色粘土
15	5Y 5/6	オリーブ色粘土
16	礫層	

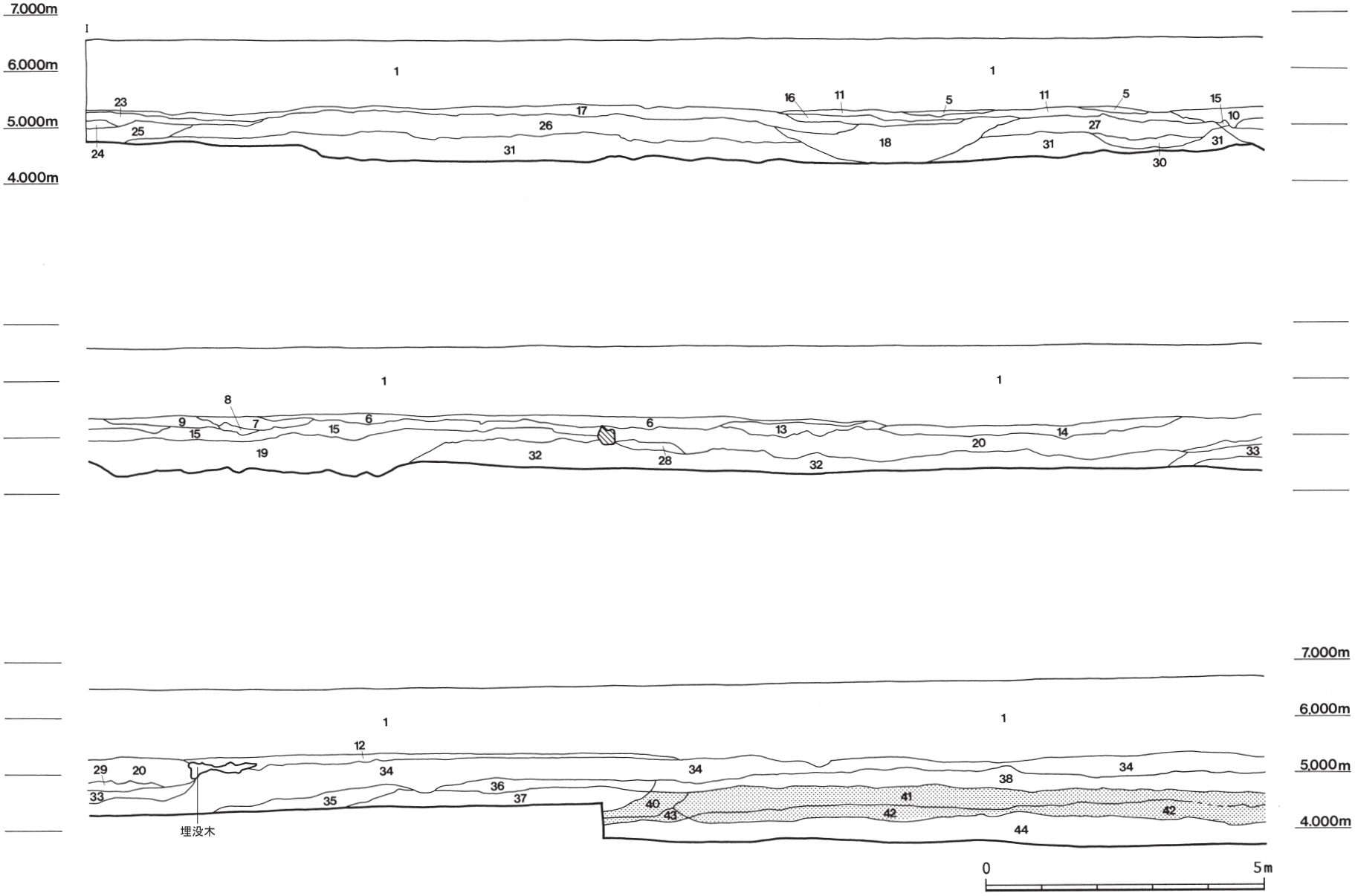
第14図　G-G' 間南壁土層断面図（S=1/100）



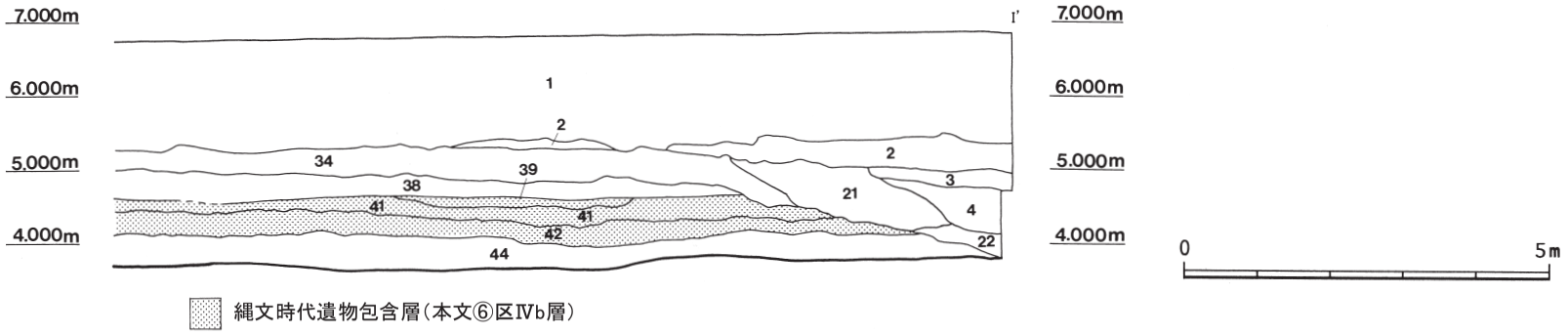
H—H'

1	耕作土、造成基盤層、客土層			
2	10YR	7/1	灰白色粘質土（3層よりも砂質が強い）	
3	10YR	7/1	灰白色粘質土	
4	7.5Y	5/3	にぶい褐色粘質土	
5	10YR	4/4	褐色粘質土	
6	10YR	4/2	灰黄褐色粘質土	
7	7.5YR	5/2	灰褐色粘質土	
8	5Y	6/1	灰色砂礫土	
9	10YR	5/2	灰黄褐色粘質土	
10	5Y	6/1	灰色砂質土	
11	5BG	5/1	青灰色粘質土	
12	10YR	5/3	にぶい黄褐色砂礫土	
13	SR-26			
14	10YR	6/6	明黄褐砂質土	
15	10YR	6/1	褐灰色粘質土	
16	10YR	5/3	小礫混にぶい黄褐色粘質土	
17	10YR	5/3	にぶい黄褐色粘質土	
18	2.5Y	4/1	黄灰色粘質土	
19	5Y	7/2	灰白色砂質土	
20	10BG	4/1	暗青灰色砂礫土	
21	5B	6/1	青灰色砂質土	
22	7.5YR	6/1	明褐色砂礫土	
23	礫層			
24	10BG	5/1	青灰色粘質土	
25	5BG	5/1	青灰色粘質土	
26	10BG	6/1	青灰色粘質土	
27	5YR	4/6	赤褐色砂礫土	
28	10BG	4/1	暗灰色砂質土	
29	7.5Y	4/1	灰色粘質土	
30	N	6/	灰色粘質土	
31	礫層、砂質土、粘質土の互層			
32	10Y	4/1	灰色砂質土	
33	礫層			

第15図　H-H'間北壁土層断面図（S=1/100）

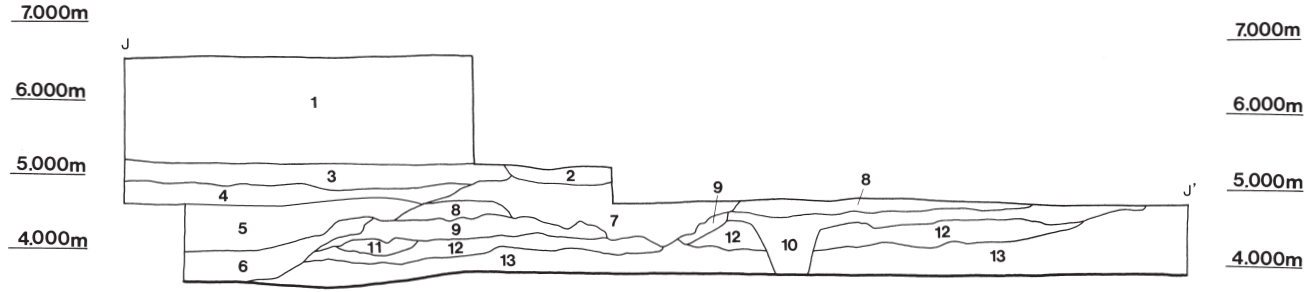


第 16 図 I-I' 間北壁土層断面図 (S=1/100)



I－I'

1	耕作土、造成基盤層、客土層			
2	2.5Y	5/3	黄褐色粘質土	
3	5Y	6/3	オリーブ黄色粘質土・砂質土互層	
4	10BG	6/1	青灰色粘質土	
5	7.5YR	6/1	褐灰色粘質土	
6	10YR	5/4	にぶい黄色粘質土	
7	10YR	5/3	にぶい黄褐色粘質土	
8	5Y	7/6	黄色砂質土	
9	5YR	4/5	赤褐色砂礫土	
10	7.5YR	4/2	灰褐色粘質土	
11	7.5YR	5/6	明褐色砂礫土	
12	N	6/1	灰色粘質土	
13	2.5YR	4/6	赤褐色砂礫土	
14	2.5Y	5/2	暗灰黄色粘質土	
15	10YR	5/1	褐灰色粘質土（16層よりも砂質が強い）	
16	10YR	5/1	褐灰色粘質土	
17	7.5Y	4/4	褐色砂礫土	
18	SR-28			
19	SR-29			
20	SR-25			
21	SR-27			
22	7.5R	4/1	暗赤灰色粘質土・砂質土互層	
23	7.5Y	5/6	明褐色砂質土	
24	2.5Y	5/3	黄褐色砂質土	
25	10Y	6/2	オリーブ灰色砂礫土	
26	10Y	6/2	オリーブ灰色粘質土	
27	10YR	4/2	灰黄褐色粘質土	
28	2.5Y	5/3	黄褐色粘質土	
29	5Y	6/3	オリーブ黄色粘質土	
30	7.5YR	5/1	褐灰色砂礫土	
31	10BG	5/1	青灰色砂質土	
32	礫層			
33	7.5Y	4/2	灰褐色腐植土・砂質土互層	
34	礫層			
35	5Y	6/3	オリーブ黄色砂質土	
36	5Y	6/2	灰オリーブ粘質土	
37	5YR	5/8	明赤褐色砂礫土	
38	10BG	5/1	青灰色粘質土（本文Ⅳa層）	
39	7.5YR	5/1	褐灰色粘質土	
40	5Y	6/3	オリーブ黄色砂質土・腐植土・礫互層	
41	5Y	6/1	灰色粘質土	
42	5YR	5/1	褐灰色粘質土	
43	5Y	6/1	灰色粘質土	
44	N	7/	灰白色粘質土	



J－J'

1	耕作土、造成基盤層、客土層		
2	10YR	6/6	明褐色砂礫土
3	2.5Y	5/3	黄褐色粘質土
4	5Y	6/3	オリーブ黄色粘質土・砂質土互層
5	10BG	6/1	青灰色粘質土
6	7.5R	4/1	暗赤灰色粘質土・砂質土互層
7	10YR	5/1	褐灰色粘質土
8	5Y	7/2	灰白色砂質土（本文Ⅳァ層）
9	5Y	6/2	灰オリーブ色粘質土
10	5R	3/1	暗赤灰色粘質土（本文Ⅳゥ層）
11	10R	4/1	暗赤灰色粘質土
12	10YR	5/2	灰黄褐色粘質土
13	10YR	6/2	灰黄褐色粘質土

第17図　I-I'間北壁・J-J'間東壁土層断面図（S=1/100）

Ⅳ　遺構・遺物

1　遺物包含層

(1) ②・⑥区縄文時代遺物包含層出土遺物（土器）の分類（附編 1）

②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）・⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳｂ層）から出土した土器は，器形・文様構成・胎土・調整方法などの属性を抽出し，以下のⅠ～Ⅴ期に大別し，それぞれに細分を設定した。

【第Ⅰ期（縄文時代後期前葉の土器）（坂の下式系土器）】※②区では１点のみ出土。

全体の器形は不明であるが，口縁部はほぼ直立またはやや内彎し，底部は平底を呈する。文様は口縁部外面に１条の横位沈線で区画し，沈線または指頭による凹点文を施す口縁部片が多い。また，口縁部外面に凹点文，口唇部に凹点文を施し波状を呈する口縁部片が認められる。

(a) 滑石粒を大量に含むもの。

(b) 大量ではないが滑石粉を含むもの。

(c) 滑石を含まないもの。

(d) 粗砂を含み内面に煤状炭化物が付着するもの。

【第Ⅱ期（縄文時代後期中葉とその前後の土器）】※⑥区では（c）・(d)・(f）は出土・分類していない。

全体の器形は不明であるが，特徴的な破片から，鐘崎式系土器前後のものと判断した。

(a) 屈曲部に把手をもつもの，及びそれに類似した胎土のもの。内面に簡易なミガキを施す。鐘崎式系土器と考えられる。②区で出土したものは，胎土に白色粒子を多く含む。以下のように細分した。

1．屈曲部に把手をもつもの。2．深鉢で屈曲部をもつもの。

(b) 内面に顕著なミガキを施すもの。

(c) 平口縁で表面の剥落が著しいもの。器壁は厚い。

(d) 砂・角閃石を含むもの。器壁・調整は（b）に似ているが，砂気が強い。

(e) 市来式系土器と考えられる。※②区では出土・分類していない。

(f) 上記以外のもの。②区において分類が不可能なもの。

【第Ⅲ期（縄文時代後期後葉の土器）】※②区では出土・分類していない。

全体の器形は不明であるが，口縁部は上端を粗雑に折り曲げた平口縁が多く，外方へ開くもの，外反するものが認められる。また，口唇部を平坦化するもの，口縁部内外面に横走条痕または条痕ナデ消しを施すものがみられる。「く」の字状に屈曲する頸部などに横位細沈線と刺突列点文を施すものが僅かに存在する。太郎迫～三万田式系土器と考えられる。

(a) 角閃石を含み硬質なもの。器壁は薄い。

(b) 角閃石を含まず軟質（粉っぽい）なもの。器壁は（a）と似ているが，外面が軟質で摩滅が著しい。

(c) 器壁が薄く粗砂を含むもの。器壁は（a)・(b）に似ているまたはより薄い。

【第Ⅳ期（縄文時代後期末～晩器前半の土器）】※②区では出土・分類していない。

(a) 精製土器。黒色磨研土器の浅鉢口縁部片。

(b) 粗製土器。内外面に斜・横走条痕または条痕ナデ消しを施すものが多い。器壁はやや厚い。

【第Ⅴ期（弥生時代以降の土器）】

上の層の影響を受けて混入したことが考えられる土器。

(2) ②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）（第 8・9・11・26～28 図，附編 1・2）

縄文時代遺物包含地は，②区の南側に位置する。当包含地は本来，広範囲に及ぶものだと考えられるが，現状は各時期の今福川またはその支流などに削られている。基本層序はトレンチを東西・南北に設定して壁面の分層を行ったが，平面的には土壌が類似しており分層することは困難であった。そのため，縄文時代遺物包含層内で遺物に座標を付して取上げた。遺物の一部については，一括・層位などにより取上げた。尚，附編に記載している②区Ⅲ層は当包含層のことであり，掲載遺物点数は遺物に座標を付して取上げた点数である。縄文時代後期中葉とその前後の遺物は，2,454 点が出土しており，内訳は土器 324 点と石器 2,130 点である。北西から南東へやや傾斜し，遺物の出土は標高約 6m前後，北西部に集中する傾向がある。出土した土器は，鐘崎式系土器前後のものが多く，胴部屈曲部に把手をもつ鐘崎式系土器も認められる。出土した石器は，黒曜石が主体を占め，薄い石刃などに微細な剥離痕が認められ，残存状態は良好なものが多い。鈴桶技法に関連する石器は剥片などを含めると，約 700 点確認される。鈴桶型石刃・石核，剥片鏃，つまみ形石器などと共に彫器 31 点が出土しており，製品の中では剥片鏃 33 点に次ぐ数である。周辺遺跡において，縄文時代後期に彫器が 30 点以上出土する遺跡は確認されていないことから，彫器 31 点の存在は極めて異例である。なお，鈴桶型石刃を素材とするものが 23 点認められる。鈴桶技法の成立要因のひとつに，彫器を得る目的が含まれることを解明する上で重要な資料群である。土器・石器ともに器種の分布状況・標高に大きな差異は認められず，当包含地は縄文時代後期の生活の場であった可能性が高い。

・土器（第 18 図，第 4 表，図版 3）

当包含層において縄文時代後期中葉とその前後の土器 324 点が認められる。本報告では 20 点を掲載する。

Ⅱ-a1　1 は口縁部～胴部屈曲部。屈曲部に渦文を有する橋状把手をもつ鐘崎式系土器と考えられる。口唇部に斜位沈線，刻みを施す。外面に横位沈線，刻みを施す。2 は 1 と同一個体の可能性が高い。

Ⅱ-a2　3 は平底を呈する底部片。

Ⅱ-ｂ　4 は口縁部～胴部屈曲部。口縁部はやや外反し，外面に 2 条の横位沈線を施す。

Ⅱ-ｃ　5～8 は内彎またはほぼ直立する口縁部片。5 は口唇部に刻みを施す。9～11 は胴部片。11 は穿孔を施す。12 は胴部下半。13・15 は器壁が厚い底部片。14・16・17 は器壁が厚く平底を呈する底部片。

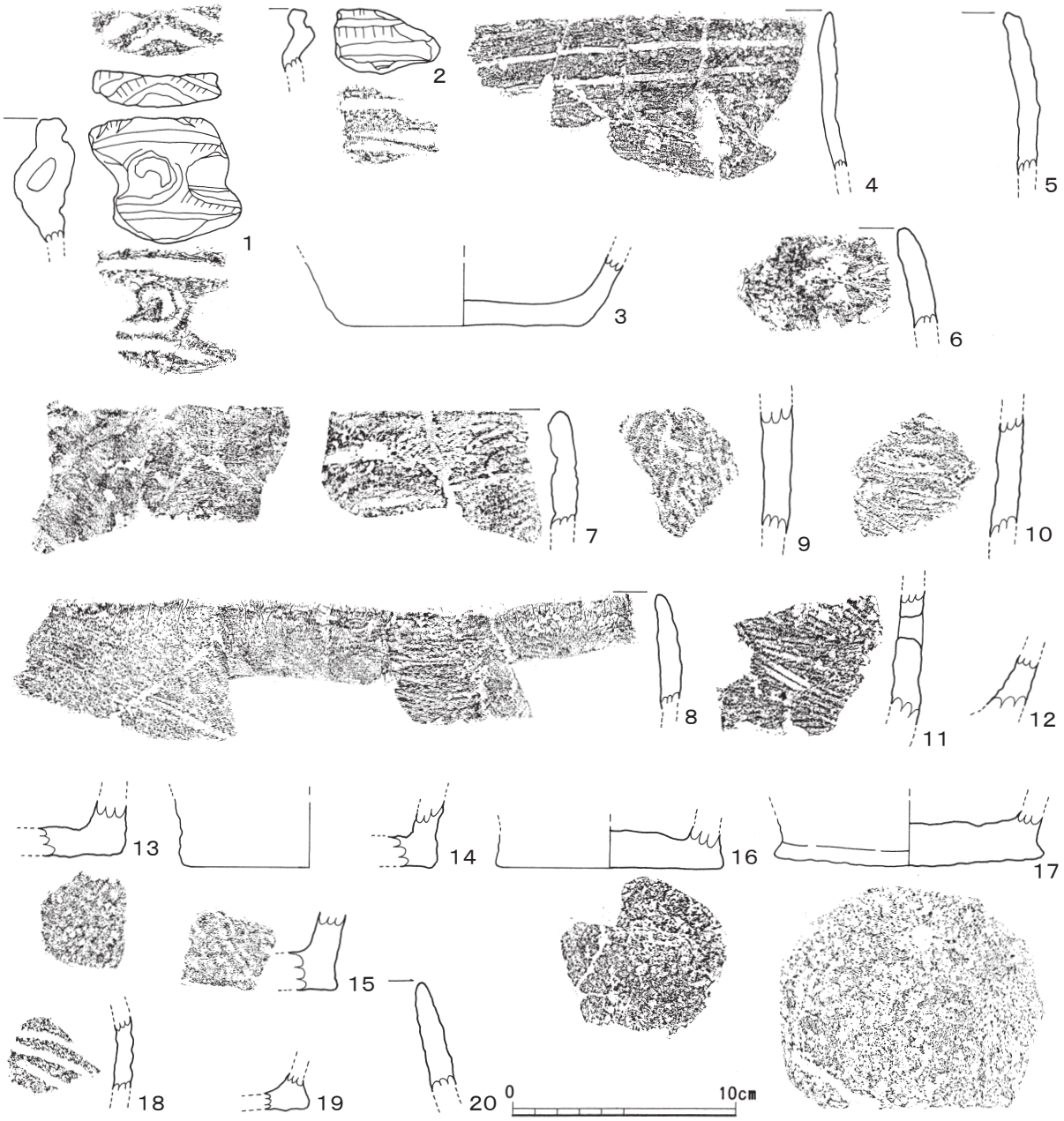
Ⅱ-ｄ　18 は外面に斜位沈線を施す胴部片。19 は底部片。

Ⅱ-ｆ　20 は内傾する口縁部片。

・石器（第 19・20～25・33 図，第 5・7・8 表，図版 3・4）

石器は剥片・チップを含めると，2,130 点が出土している。確認された器種は，石鏃，剥片鏃，スクレーパー，彫器，鈴桶型石刃，石核，つまみ形石器，敲石などが出土している。全体の約 73%を剥片・チップが占め，一部の石核片または剥片の接合が可能なことから，当包含地が石器製作の場として利用された可能性が高い。縄文時代後期中葉とその前後の土器と鈴桶型石刃を素材とする彫器 23 点の共伴が認められることから，当時期における鈴桶技法の成立要因を解明する上で重要な資料群である。

1～43 は石鏃・剥片鏃。石鏃は製品 9 点，未製品 1 点，合計 10 点を確認した。全てが黒曜石製。剥片鏃は製品 32 点，未製品 1 点，合計 33 点を確認した。全てが黒曜石製。石鏃・剥片鏃は器種判明石器の約 5%を占める。石鏃・剥片鏃の分類は基部における抉入の深浅と尖端角度等の形態をもとに分類・図化した。1・2・11～13 は A 類 1 型。平基無茎鏃で両側縁はやや内彎する。3・4・14～22 は B 類 1a 型。両側縁が内彎する。脚部の抉りは深く丸い。5・23・24 は B 類 1b 型。両側縁は内彎する。抉りは浅く，脚部の先端は尖る。



第 18 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土土器（S=1/3）

6・7・25～27 はＢ類 2a 型。両側縁は直線的に交わる。抉りは深く丸い。脚部の先端は尖ったものと丸みをもつものがある。**8・28～31** はＢ類 3a 型。細身で両側縁は外反する。尖端が歪な製品が多い。**32～34** はＣ類２型。正三角形に近く抉りは浅い。**9・10・35～43** はＤ類。形態にばらつきが多いものや破損により分類が不可能なもの。

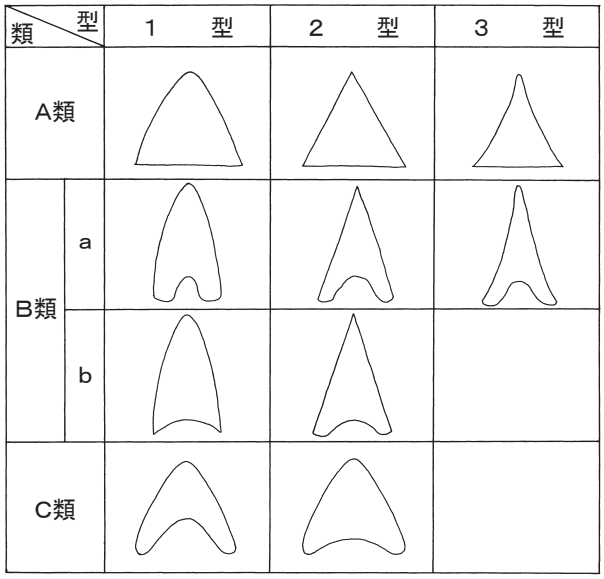
44～50 はスクレーパー。製品 29 点を確認した。器種判明石器の約 3%を占める。石材は全体の約 79%が黒曜石で残りは安山岩。本報告では 7 点を掲載する。**44～46** は一縁辺に曲線の刃部をもつ。**47** は複数縁辺に直線の刃部をもつ。**48～50** は両側縁部に曲線の刃部をもつ。

51～81 は彫器。製品 31 点を確認した。器種判明石器の約 4%を占める。石材は全て黒曜石。**52・54～57・61～66・68～73・75～78・80・81** は鈴桶型石刃を素材とする彫器。彫器の分類は彫刀面が作出される位置と彫刀面を設ける際の打面の状態からⅠ～Ⅴ類に大別した。**51～56** はⅠ類。平坦な面を打面として，その

図版番号	型式	器種	調整		色調		焼成	胎土
			外面	内面	内面	外面		
1	Ⅱ－a1	深鉢	ナデ	ナデ/磨き	橙色	橙色	やや不良	やや粗雑　長石・石英・白色粒子
2	Ⅱ－a1	深鉢	ナデ	ナデ/磨き/条痕ナデ消し	橙色	にぶい橙色	やや良好	やや粗雑　長石・石英・白色粒子
3	Ⅱ－a2	深鉢	ナデ/風化による劣化	ナデ/磨き/風化による劣化	灰褐色	明赤褐色	やや不良	やや粗雑　長石・石英・雲母・角閃石・小礫
4	Ⅱ－b	深鉢	ナデ/横位沈線	ナデ/磨き	にぶい褐色	橙色	やや不良	やや粗雑　長石・石英・雲母・結晶片岩・小礫
5	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	赤褐色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑　白色粒子
6	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	褐色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑　黒色粒子
7	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	暗赤褐色	暗赤褐色	やや不良	やや粗雑
8	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	橙色	赤褐色	やや不良	やや粗雑
9	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	にぶい橙色	明赤褐色	やや不良	やや粗雑　白色粒子
10	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	褐色	暗赤褐色	やや不良	やや粗雑
11	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/穿孔/風化による劣化	条痕ナデ消し/穿孔/風化による劣化	暗赤褐色	暗赤褐色	やや不良	やや粗雑　黒色粒子
12	Ⅱ－c	深鉢	ナデ/風化による劣化	ナデ/風化による劣化	にぶい赤褐色	赤褐色	やや不良	やや粗雑
13	Ⅱ－c	深鉢	条痕ナデ消し/ナデ/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	明赤褐色	橙色	やや不良	やや粗雑　黒色粒子・白色粒子
14	Ⅱ－c	深鉢	ナデ/風化による劣化	ナデ/風化による劣化	橙色	明赤褐色	やや不良	やや粗雑　石英・長石・角閃石
15	Ⅱ－c	深鉢	ナデ/風化をうける	ナデ/風化をうける	橙色	明赤褐色	やや不良	やや粗雑　角閃石・長石・石英
16	Ⅱ－c	深鉢	ナデ/風化をうける	ナデ/風化をうける	明赤褐色	赤褐色	やや不良	やや粗雑
17	Ⅱ－c	深鉢	ナデ/風化による劣化	ナデ/風化による劣化	赤褐色	赤褐色	やや不良	やや粗雑　黒色粒子
18	Ⅱ－d	深鉢	ナデ/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	褐色	褐色	やや不良	やや粗雑　角閃石・雲母・石英・白色粒子
19	Ⅱ－d	深鉢	ナデ/風化をうける	ナデ/風化をうける	明褐色	にぶい褐色	やや不良	やや粗雑　角閃石・雲母・石英・白色粒子
20	Ⅱ－f	深鉢	条痕ナデ消し/風化をうける	条痕ナデ消し/風化をうける	にぶい黄褐色	灰黄色	やや不良	やや粗雑　黒色粒子

第 4 表　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土土器観察表

一端から樋状剥離を施す。57・58 はⅠ＋Ⅲ類。平坦な面を打面とし，その一端から樋状剥離を施すとともに，彫刀面を設けるための打面に調整剥離を施す。59 はⅡ類。彫刀面を設けるための平坦な打面をもたず，彫刀面が素材の一部を斜めに横切る。60～74 はⅢ類。彫刀面を設けるための打面に調整剥離を施す。75 はⅢ＋Ⅳ類。彫刀面を設けるための打面に調整剥離を施すとともに，樋状剥離の打面形成が，樋状剥離面と反対の方向から樋状剥離によって準備されている。76～80 はⅣ類。樋状剥離の打面形成は 75 と同じである。81 はⅤ類。彫刀面が主要剥離面側に大きくねじれる。



第 19 図　石鏃・剥片鏃形態図

82～89 は鈴桶型石刃。鈴桶型石刃は剥片を含めると，727 点確認された。器種判明石器の約 81%を占める。石材は全て黒曜石。本報告では 8 点を掲載する。82～89 は頭部調整を施し，使用痕が確認される。

90～98 は石核。34 点確認された。器種判明石器の約 4%を占める。石材は全体の約 97%が黒曜石で約 3%が安山岩。本報告では 9 点を掲載する。90 は頭部調整，打面転移が確認される。91 は複数の石核片が接合するもの。92・95 は打面転移が確認される。93・94・96～98 は頭部調整，打面転移が確認される鈴桶型石刃の石核。

99～112 はつまみ形石器。26 点確認された。器種判明石器の約 3%を占める。石材は全て黒曜石。本報告では 14 点を掲載する。99～101・103～111 は頭部調整，両側縁に二次加工を施し，折断が確認される。102 は鋸歯鏃未製品の可能性がある。105 は石鏃未製品の可能性がある。112 は両側縁に二次加工を施す。

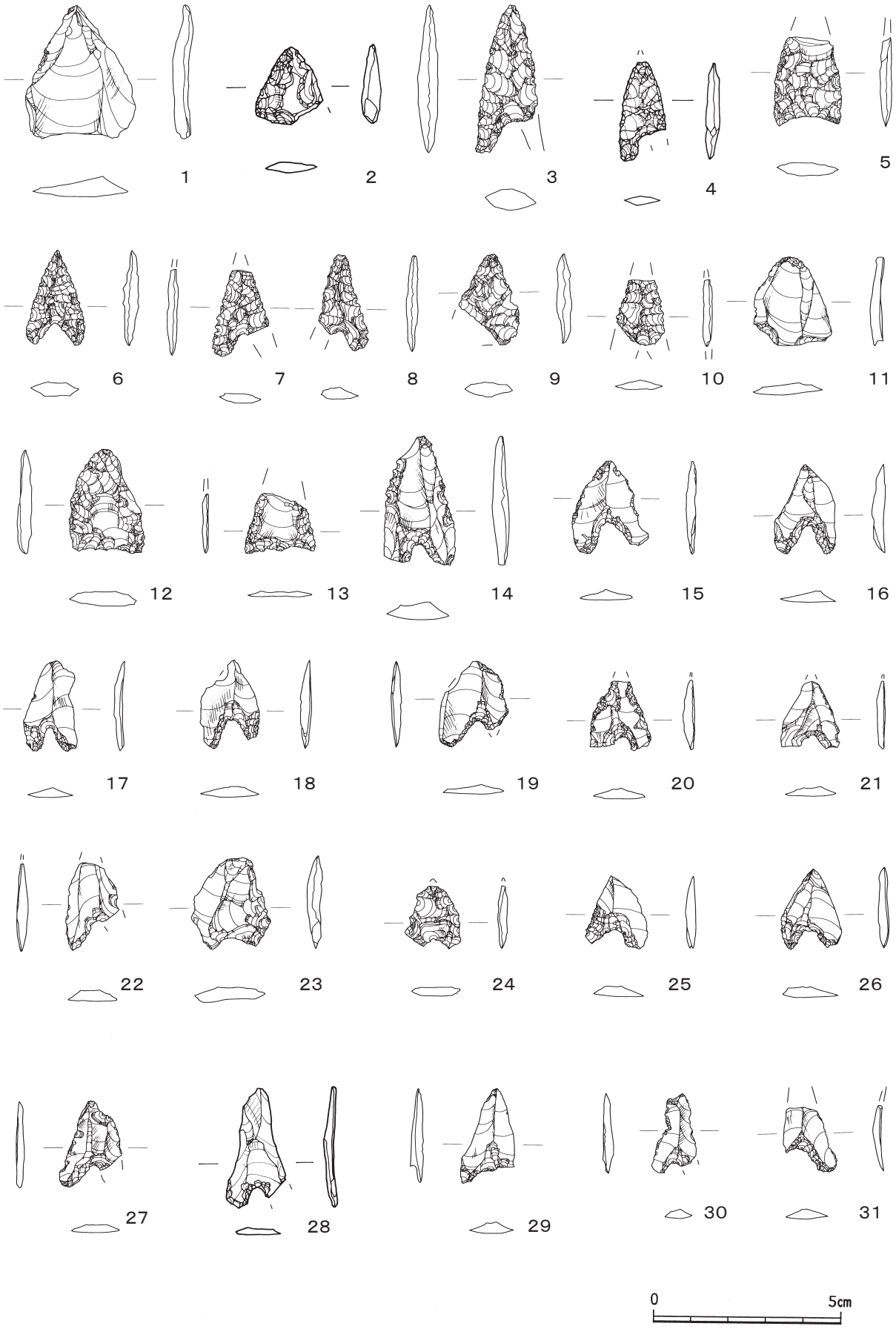
113・114 は敲石。2 点確認された。石材は全て砂岩。113 は表面及び端部に敲打痕，線状痕が確認される。114 は端部に敲打痕が確認される。

		黒曜石		安山岩		蛇文岩		堆積岩		砂岩		赤色火山岩		不明		小計	合計	
石鏃	製品	9	1.0%													9	10	1.1%
	未製品	1	0.1%													1		
剥片鏃	製品	32	3.6%													32	33	3.7%
	未製品	1	0.1%													1		
石匙	製品															0	0	0.0%
	未製品															0		
スクレーパー	製品	23	2.6%	6	85.7%											29	29	3.2%
	未製品															0		
彫器	製品	31	3.5%													31	31	3.5%
	未製品															0		
鈴桶型石刃		727	82.3%													727	727	81.4%
磨製石斧	製品															0	0	0.0%
	未製品															0		
打製石斧	製品															0	0	0.0%
	未製品															0		
石核		34	3.9%	1	14.3%											35	35	3.9%
つまみ形石器		26	2.9%													26	26	2.9%
尖頭器																0	0	0.0%
石槍																0	0	0.0%
砥石																0	0	0.0%
敲石										2	100%					2	2	0.2%
その他																0	0	0.0%
合計		884	99.0%	7	0.8%					2	0.2%					893	893	100%

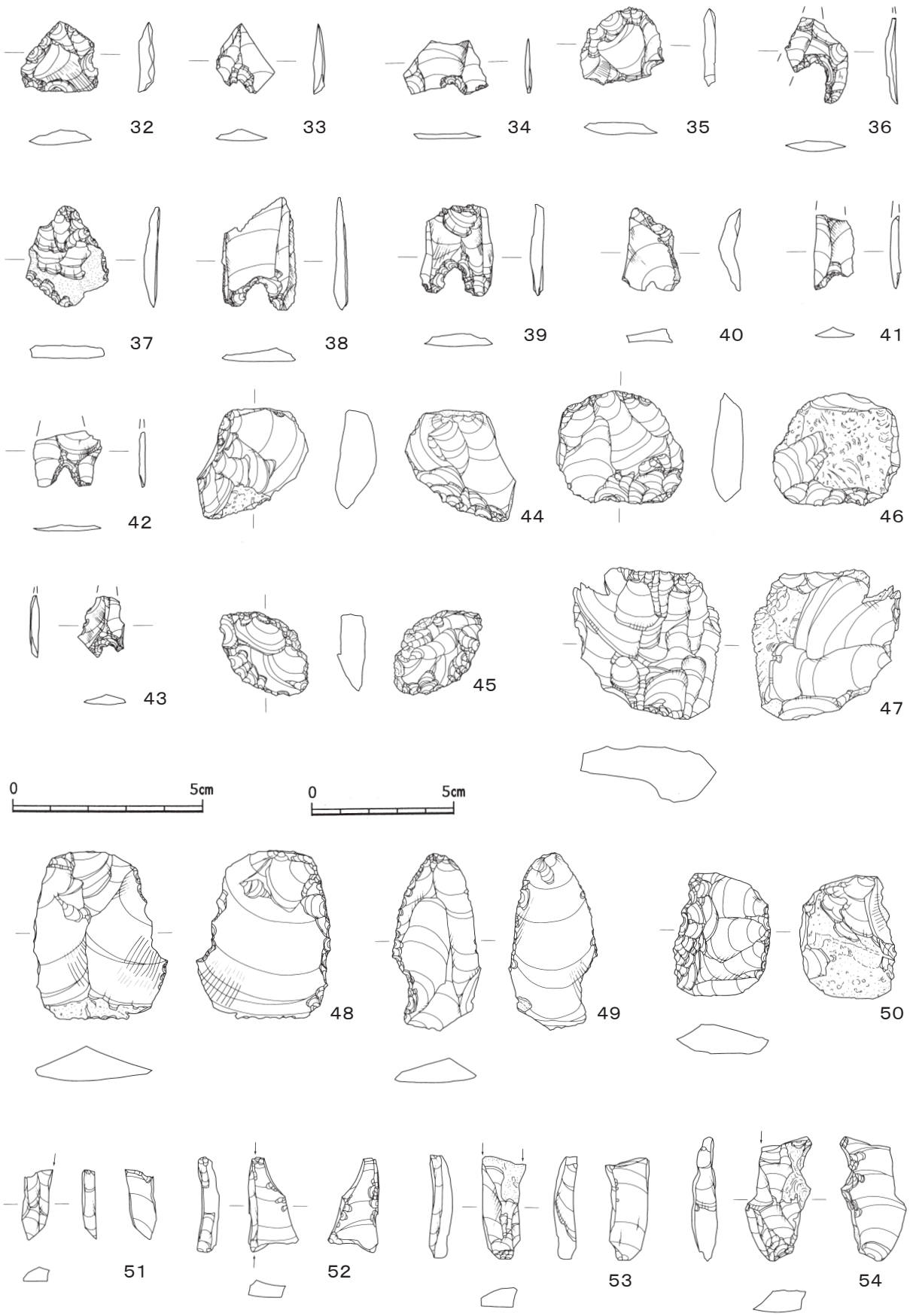
第５表　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器石種別組成表

		黒曜石		安山岩		蛇文岩		堆積岩		砂岩		赤色火山岩		不明		小計	合計	
石鏃	製品	14	14.0%													14	15	9.6%
	未製品	1	1.0%													1		
剥片鏃	製品	1	1.0%													1	1	0.6%
	未製品															0		
石匙	製品	2	2.0%	2	3.9%											4	4	2.6%
	未製品															0		
スクレーパー	製品	33	33.0%	31	60.8%											64	64	41.0%
	未製品															0		
彫器	製品	1	1.0%													1	1	0.6%
	未製品															0		
鈴桶型石刃		15	15.0%													15	15	9.6%
磨製石斧	製品			1	2.0%	1	100%	1	100.0%							3	3	1.9%
	未製品															0		
打製石斧	製品			3	5.9%											3	3	1.9%
	未製品															0		
石核		27	27.0%	7	13.7%							2	100%			36	36	23.1%
つまみ形石器																0	0	0.0%
尖頭器		6	6.0%	3	5.9%											9	9	5.8%
石槍				2	3.9%											2	2	1.3%
砥石										1	100%					1	1	0.6%
敲石																0	0	0.0%
その他				2	3.9%											2	2	1.3%
合計		100	64.1%	51	32.7%	1	0.6%	1	0.6%	1	0.6%	2	1.3%	0	0.0%	156	156	100%

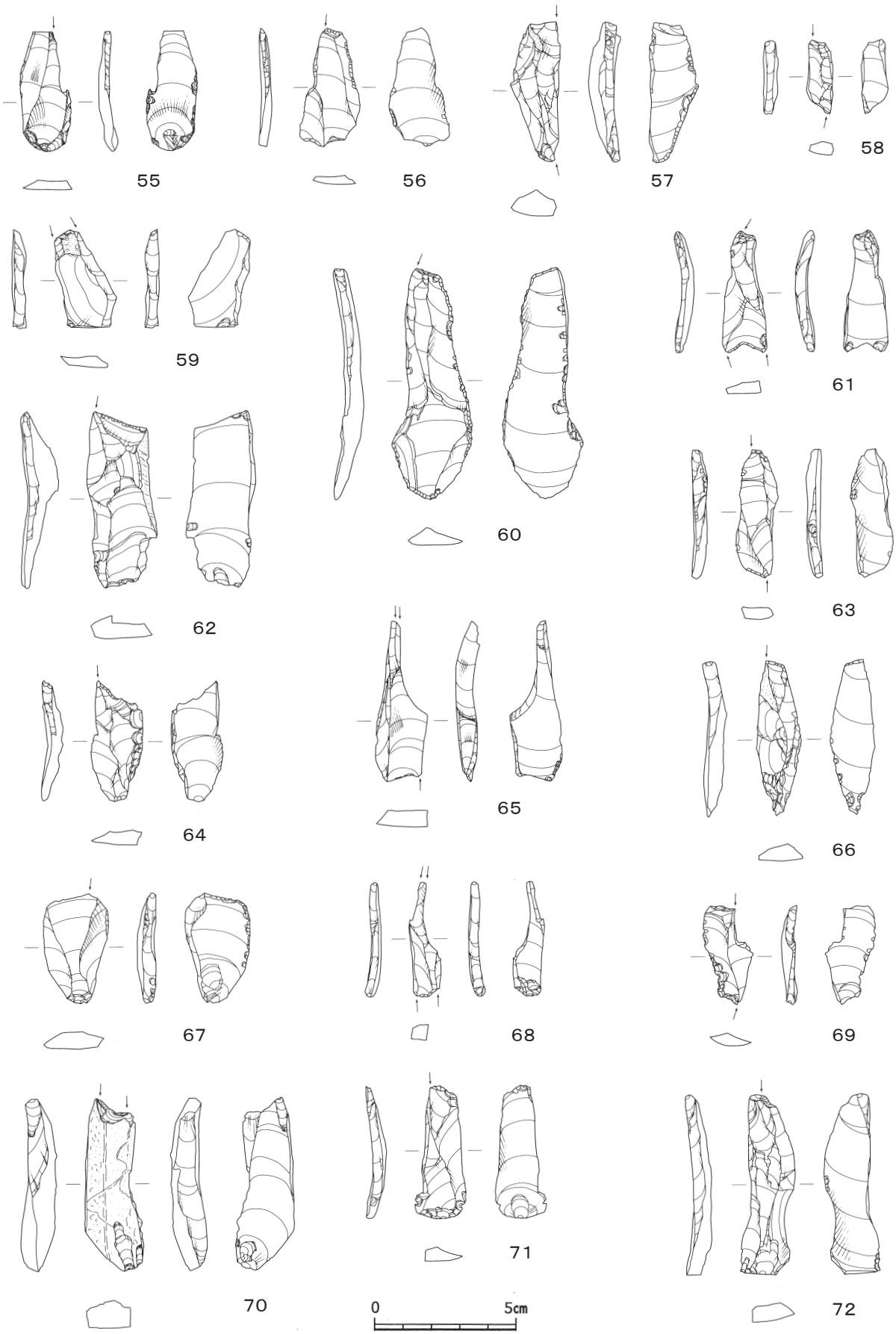
第６表　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳｂ層）出土石器石種別組成表



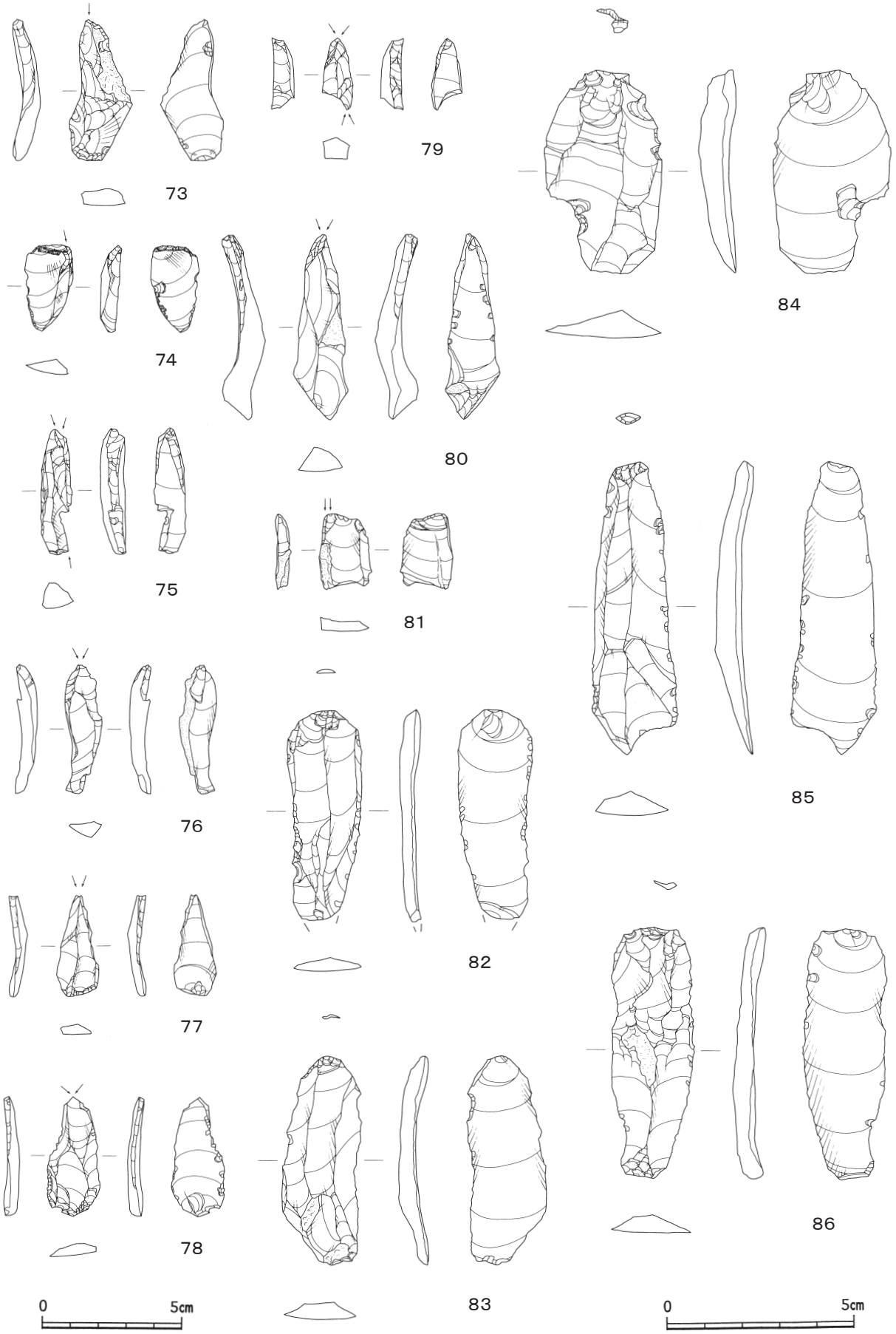
第 20 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器（1）（S=2/3）



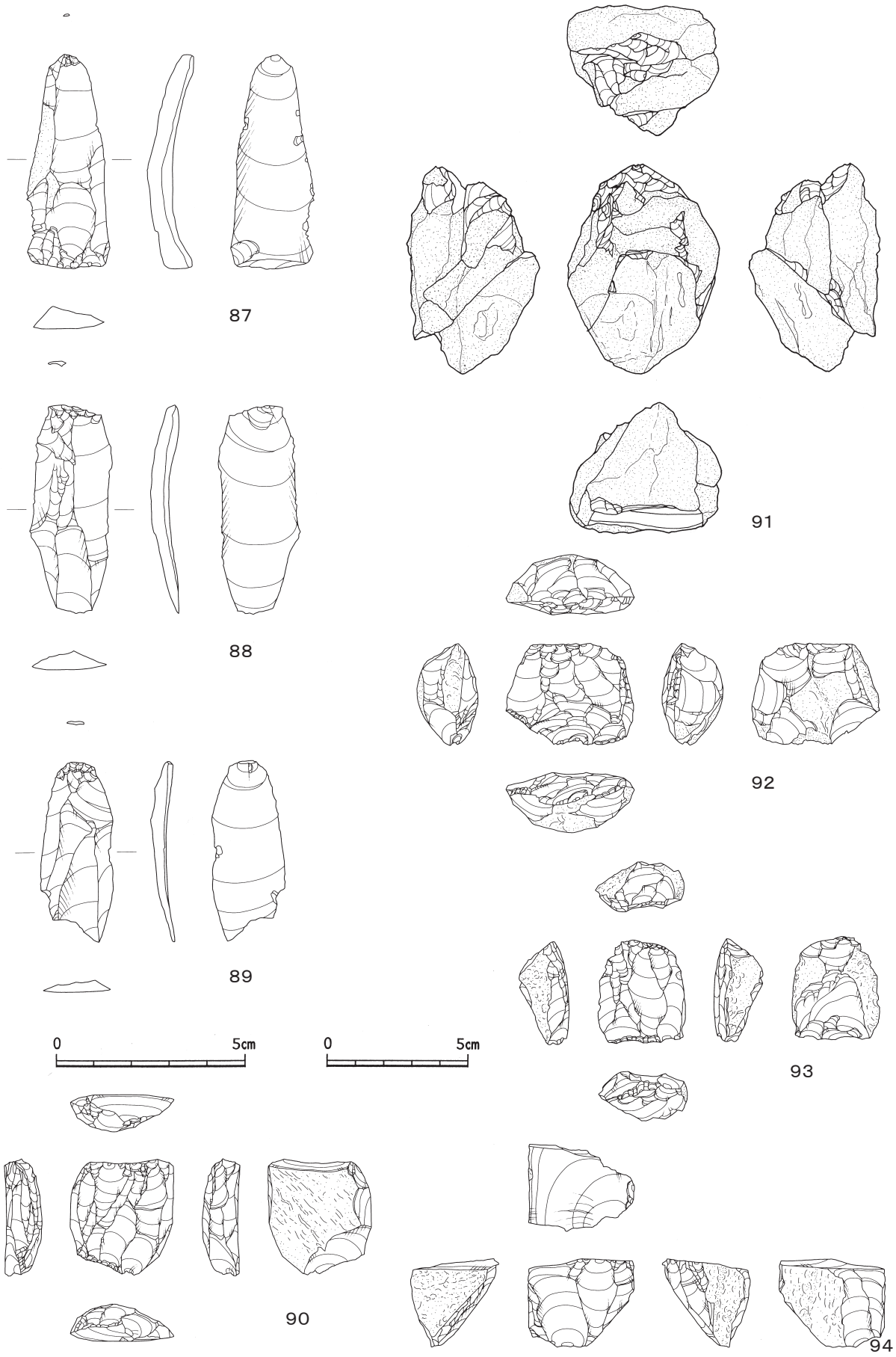
第 21 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器（2）（S=2/3，44～54 は S=1/2）



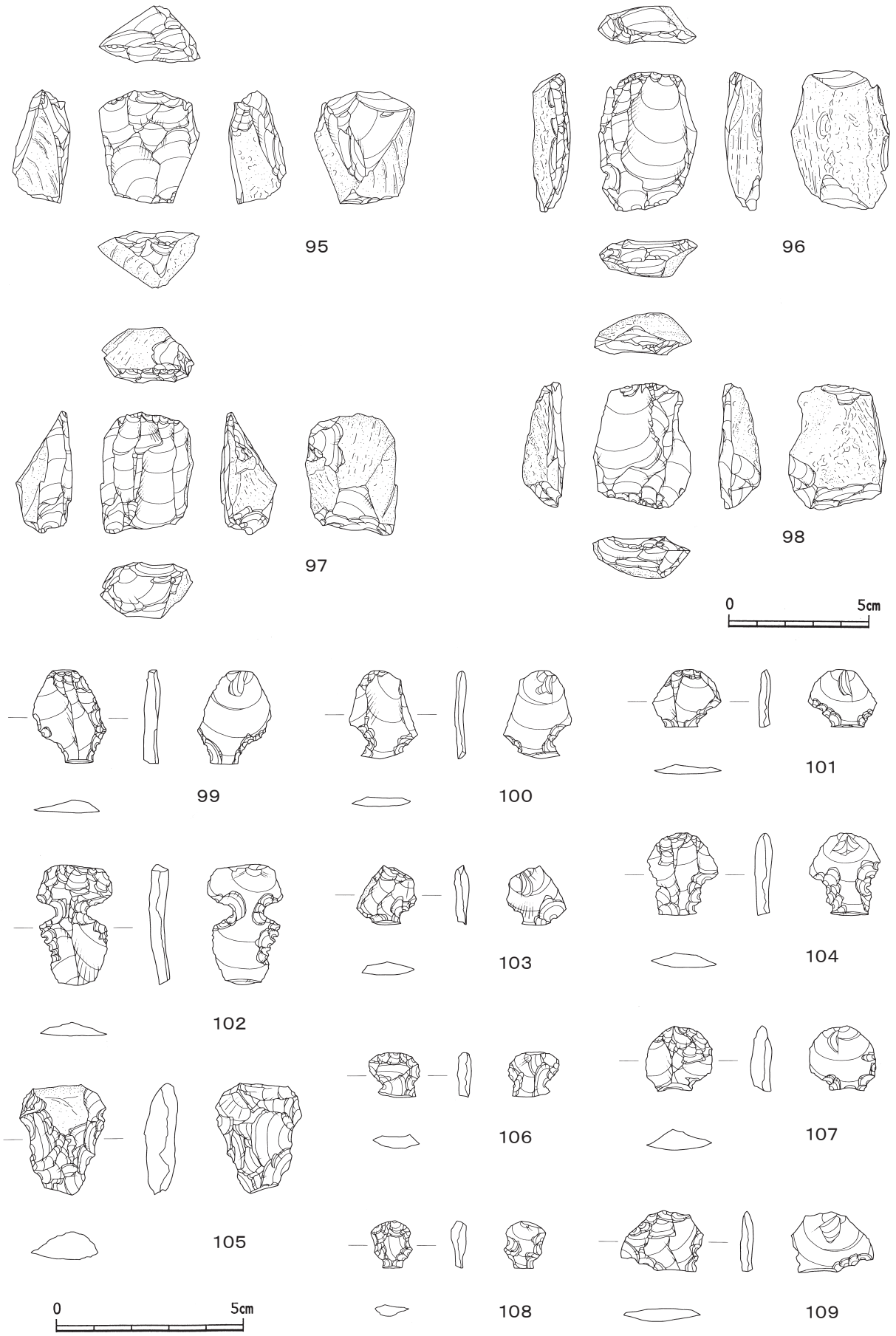
第 22 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器（3）（S＝1/2）



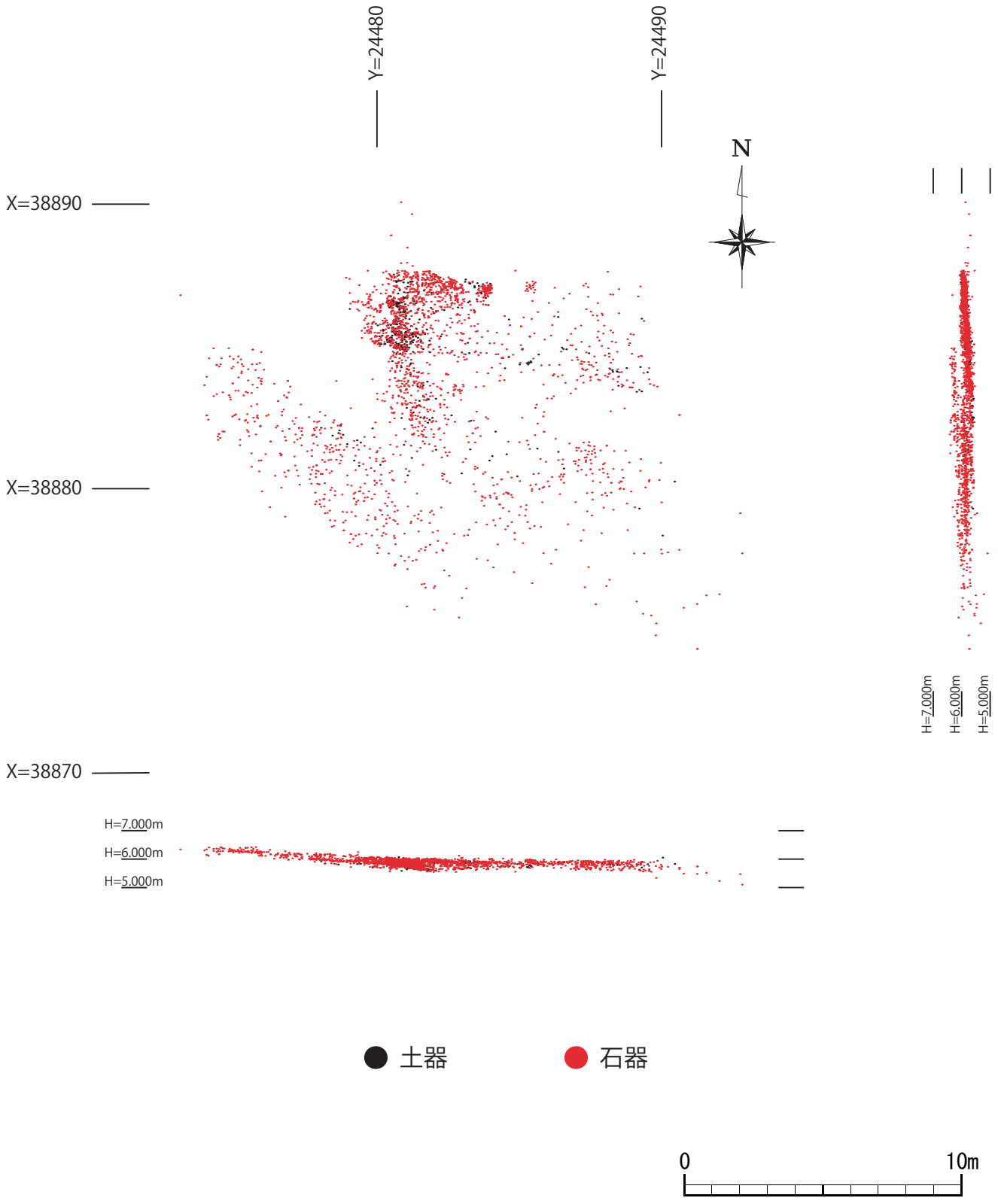
第 23 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器（4）（S＝1/2，82～86 は S＝2/3）



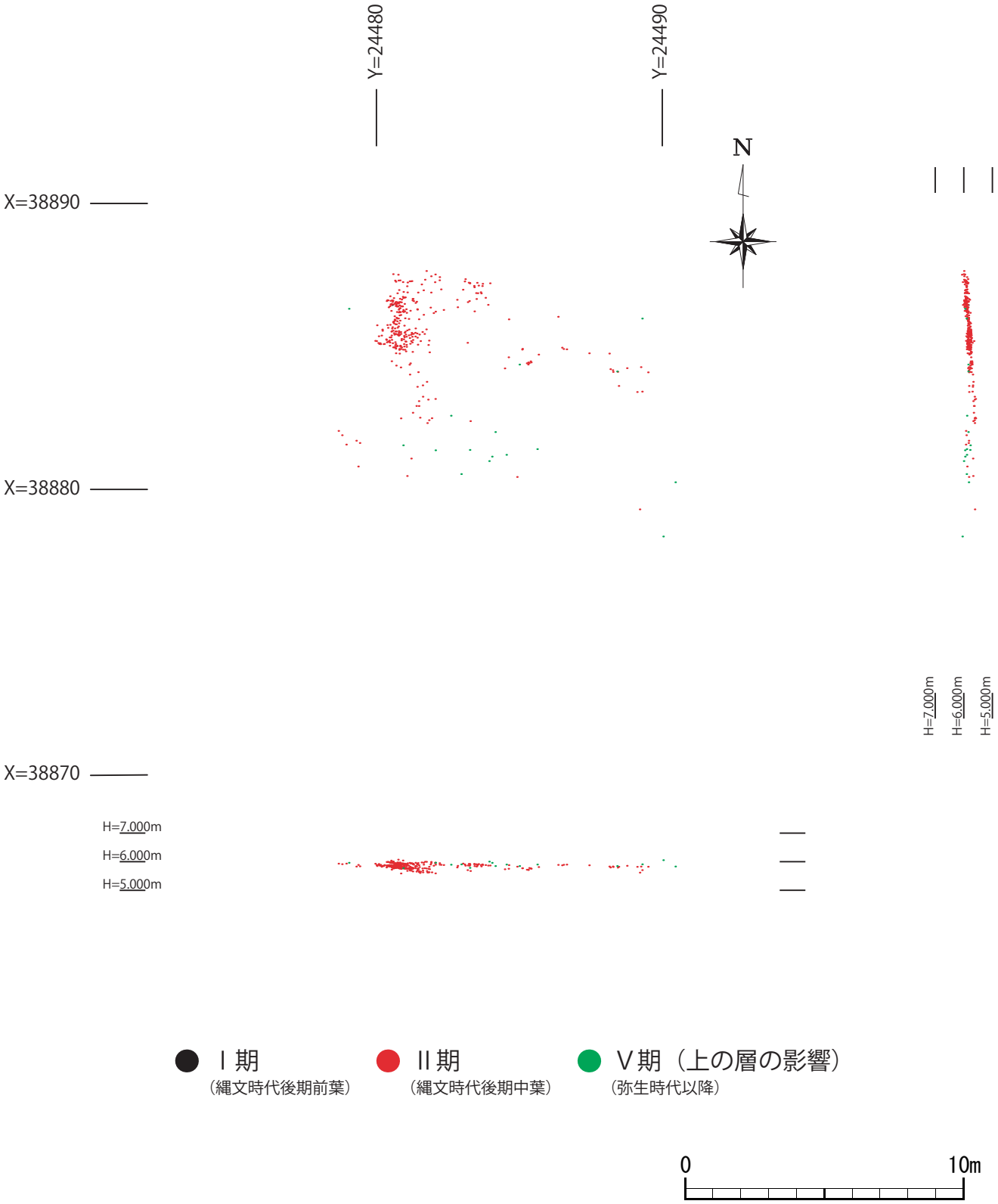
第 24 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器（5）（S=1/2，87～89 は S=2/3）



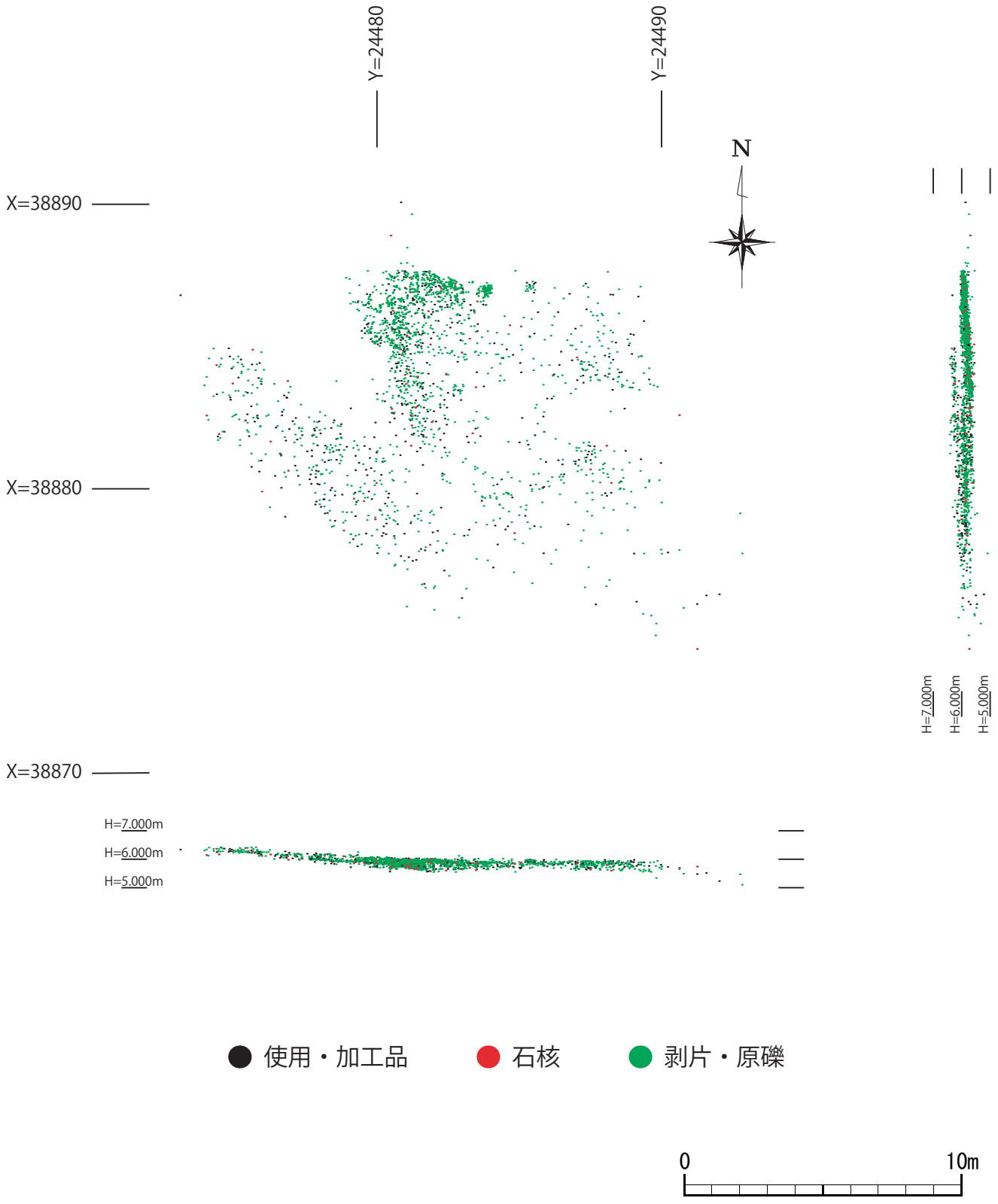
第 25 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器（6）（S=2/3，95～98 は S=1/2）



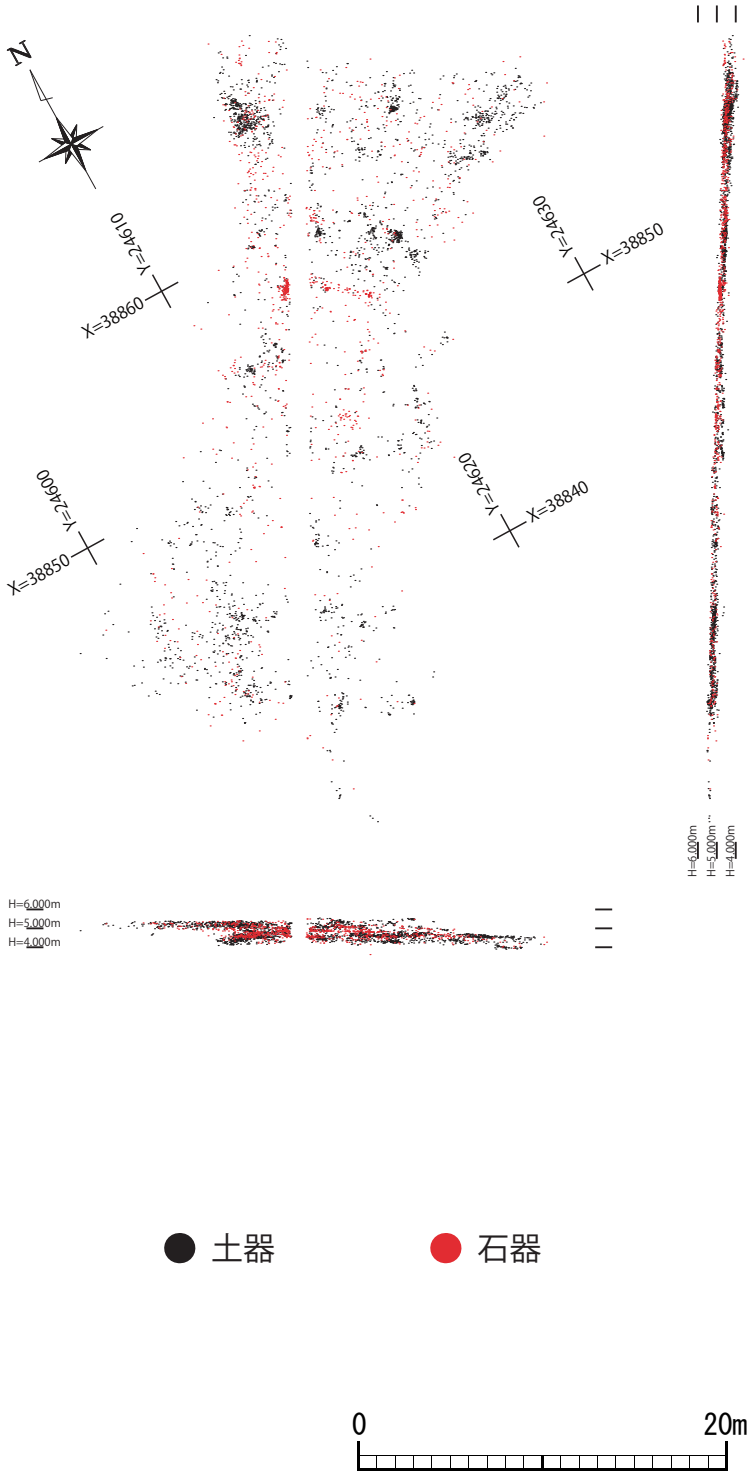
第26図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土土器・石器分布図（S＝1/200）



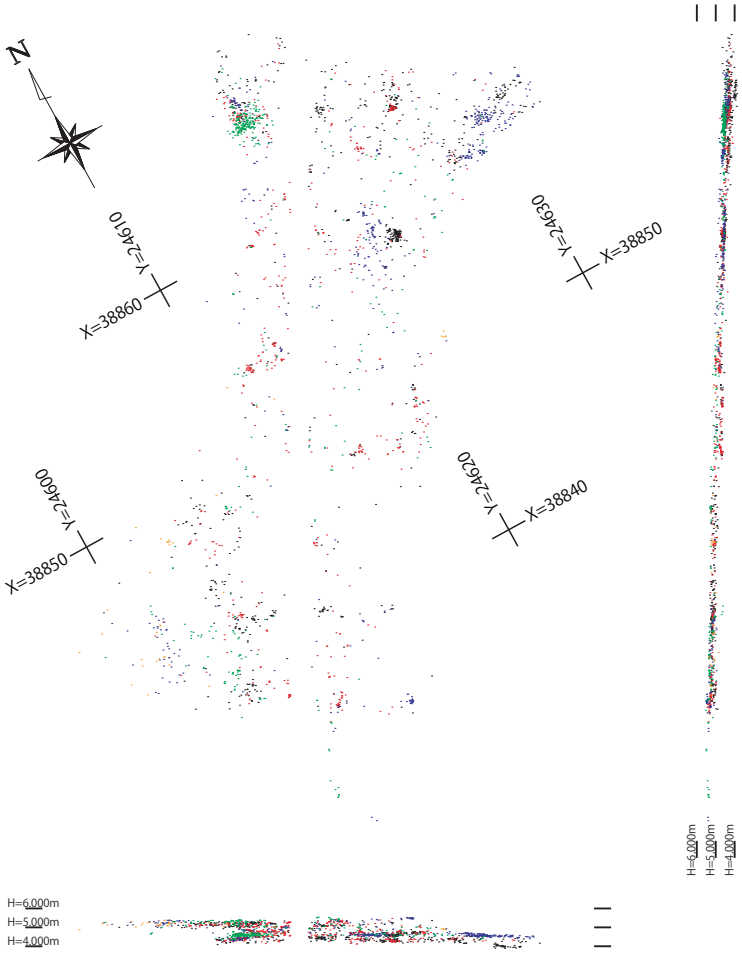
第27図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土土器時期別分布図（S＝1/200）



第28図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器器種別分布図（S＝1/200）



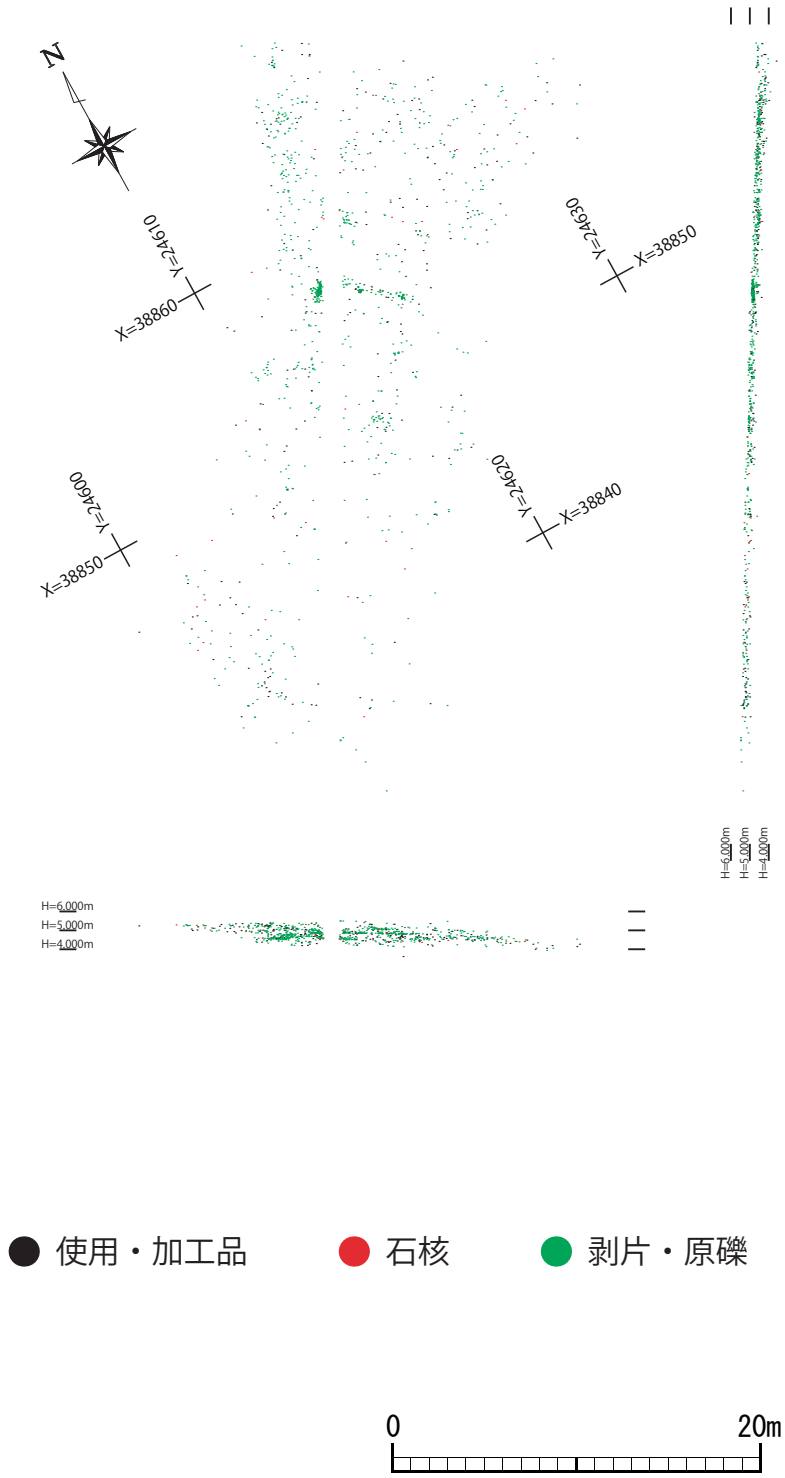
第29図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳb層）出土土器・石器分布図（S＝1/400）



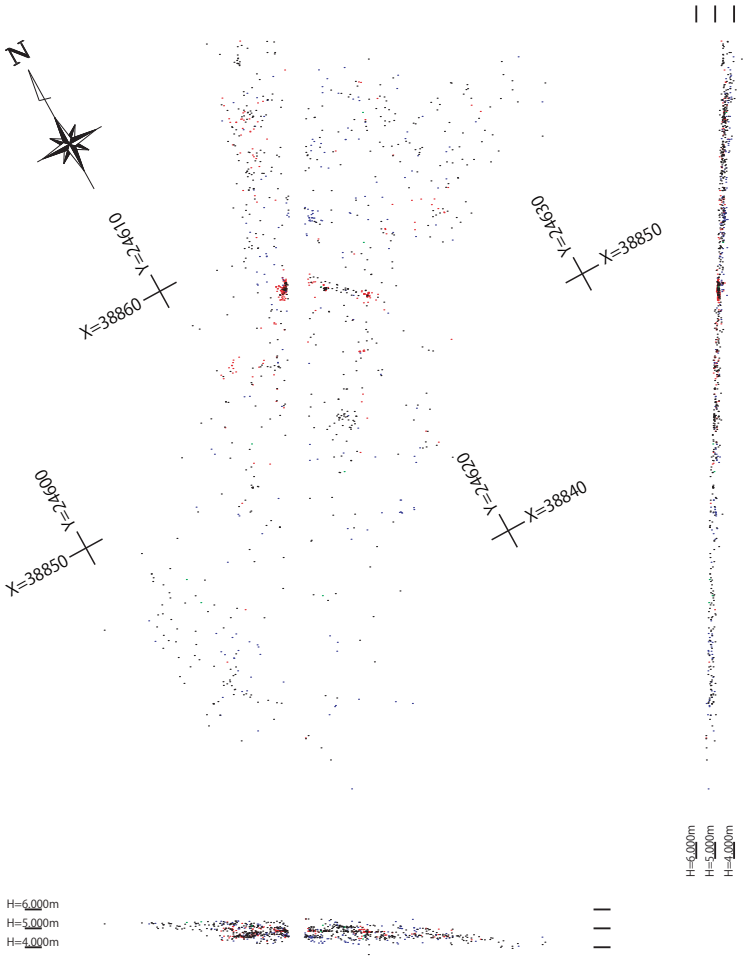
● Ⅰ期（縄文時代後期前葉）　● Ⅱ期（縄文時代後期中葉）　● Ⅲ期（縄文時代後期後葉）　● Ⅳ期（縄文時代晩期）　● Ⅴ期（弥生時代）

0　20m

第30図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳb層）出土土器時期別分布図（S＝1/400）



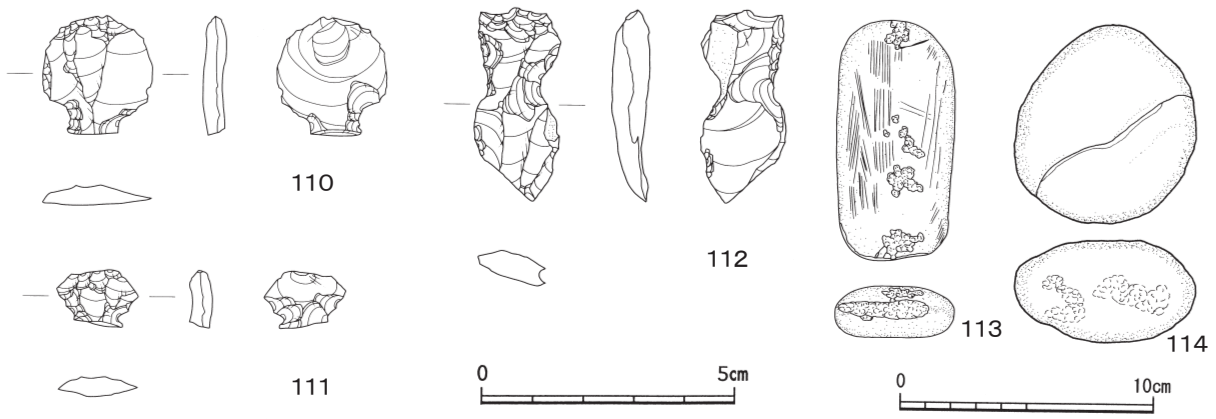
第31図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳb層）出土石器器種別分布図（S＝1/400）



● 黒曜石　● 赤色火山岩　● 安山岩　● その他

0　20m

第32図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳb層）出土石器石材別分布図（S＝1/400）



第 33 図　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器（7）（S＝2/3，113・114 は S＝1/3）

図版番号	器種	石種	法量（mm）			重さ（g）
			最大長	最大幅	最大厚	
1	石鏃	黒曜石	36.0	29.0	5.0	4.13
2	石鏃	黒曜石	21.0	19.0	5.0	1.43
3	石鏃	黒曜石	39.5	16.0	5.5	2.57
4	石鏃	黒曜石	27.0	12.0	4.0	0.69
5	石鏃	黒曜石	24.0	18.0	3.5	1.63
6	石鏃	黒曜石	25.5	16.0	4.0	0.93
7	石鏃	黒曜石	23.0	15.0	2.5	0.67
8	石鏃	黒曜石	25.5	13.0	3.0	0.60
9	石鏃	黒曜石	24.0	16.0	4.0	1.07
10	石鏃	黒曜石	18.0	13.0	2.5	0.58
11	剥片鏃	黒曜石	24.0	21.0	3.5	1.47
12	剥片鏃	黒曜石	28.0	19.0	4.0	1.94
13	剥片鏃	黒曜石	16.0	18.5	1.5	0.60
14	剥片鏃	黒曜石	34.5	19.0	4.5	2.52
15	剥片鏃	黒曜石	25.0	20.5	2.5	0.82
16	剥片鏃	黒曜石	23.5	16.5	3.5	0.71
17	剥片鏃	黒曜石	24.5	13.5	2.5	0.61
18	剥片鏃	黒曜石	22.0	16.0	3.0	0.69
19	剥片鏃	黒曜石	23.0	18.0	2.5	0.72
20	剥片鏃	黒曜石	19.0	16.0	3.0	0.71
21	剥片鏃	黒曜石	18.0	16.5	2.5	0.51
22	剥片鏃	黒曜石	23.5	14.0	3.0	0.81
23	剥片鏃	黒曜石	24.5	21.0	4.0	1.50
24	剥片鏃	黒曜石	17.0	15.0	2.5	0.52
25	剥片鏃	黒曜石	19.0	16.5	3.0	0.53
26	剥片鏃	黒曜石	21.5	16.0	3.0	0.71
27	剥片鏃	黒曜石	23.0	15.0	2.0	0.65

図版番号	器種	石種	法量（mm）			重さ（g）
			最大長	最大幅	最大厚	
28	剥片鏃	黒曜石	32.0	16.5	3.5	0.73
29	剥片鏃	黒曜石	25.5	16.0	3.0	0.75
30	剥片鏃	黒曜石	21.0	12.0	2.5	0.41
31	剥片鏃	黒曜石	17.0	12.0	2.5	0.39
32	剥片鏃	黒曜石	18.5	20.0	4.0	1.56
33	剥片鏃	黒曜石	18.5	15.5	3.0	0.48
34	剥片鏃	黒曜石	14.5	22.0	1.5	0.49
35	剥片鏃	黒曜石	20.0	23.0	3.0	1.47
36	剥片鏃	黒曜石	22.0	16.0	3.0	0.59
37	剥片鏃	黒曜石	26.5	22.0	3.5	2.12
38	剥片鏃	黒曜石	30.0	19.5	3.5	1.46
39	剥片鏃	黒曜石	24.0	19.0	3.5	1.26
40	剥片鏃	黒曜石	22.0	15.5	4.0	0.96
41	剥片鏃	黒曜石	20.0	11.0	2.5	0.43
42	剥片鏃	黒曜石	15.0	18.0	1.5	0.40
43	剥片鏃	黒曜石	16.0	12.5	2.5	0.44
44	スクレーパー	黒曜石	39.0	38.8	14.4	19.13
45	スクレーパー	黒曜石	29.7	31.0	10.0	8.46
46	スクレーパー	黒曜石	39.3	44.4	10.6	21.76
47	スクレーパー	黒曜石	53.0	52.2	16.4	43.36
48	スクレーパー	黒曜石	59.0	42.2	12.3	34.65
49	スクレーパー	黒曜石	62.4	31.3	8.8	15.71
50	スクレーパー	黒曜石	43.6	34.2	10.4	19.13
51	彫器	黒曜石	24.6	11.0	5.0	1.27
52	彫器	黒曜石	33.4	17.8	7.5	3.51
53	彫器	黒曜石	36.0	15.3	8.0	4.33
54	彫器	黒曜石	43.5	23.1	8.0	7.81

第 7 表　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器観察表（1）

図版番号	器種	石種	法量（mm）			重さ（g）
			最大長	最大幅	最大厚	
55	彫器	黒曜石	42.0	18.0	4.0	2.96
56	彫器	黒曜石	42.0	21.2	4.5	2.81
57	彫器	黒曜石	49.5	17.5	11.0	7.35
58	彫器	黒曜石	26.0	9.5	5.2	1.38
59	彫器	黒曜石	34.5	22.0	5.0	3.45
60	彫器	黒曜石	82.0	28.5	10.5	12.83
61	彫器	黒曜石	43.0	15.5	7.0	3.29
62	彫器	黒曜石	62.5	24.5	13.5	12.86
63	彫器	黒曜石	45.5	15.0	5.5	3.53
64	彫器	黒曜石	42.7	18.3	7.5	4.10
65	彫器	黒曜石	57.0	18.0	8.5	5.51
66	彫器	黒曜石	55.0	15.9	8.5	4.82
67	彫器	黒曜石	39.0	23.1	6.5	5.24
68	彫器	黒曜石	40.5	11.2	5.6	1.73
69	彫器	黒曜石	35.0	17.5	5.5	1.86
70	彫器	黒曜石	61.0	20.5	9.5	14.56
71	彫器	黒曜石	47.0	18.0	7.0	3.56
72	彫器	黒曜石	64.0	19.5	9.0	7.51
73	彫器	黒曜石	50.5	22.5	10.0	6.39
74	彫器	黒曜石	31.0	18.0	6.0	2.84
75	彫器	黒曜石	45.0	11.5	9.0	4.59
76	彫器	黒曜石	46.0	13.2	7.5	2.59
77	彫器	黒曜石	36.0	15.2	7.0	1.83
78	彫器	黒曜石	42.5	18.5	5.5	3.29
79	彫器	黒曜石	25.5	11.0	8.0	2.24
80	彫器	黒曜石	66.0	19.5	15.0	8.09
81	彫器	黒曜石	27.0	18.9	5.5	2.31
82	鈴桶型石刃	黒曜石	56.4	20.0	5.5	5.04
83	鈴桶型石刃	黒曜石	56.0	21.2	7.0	5.57
84	鈴桶型石刃	黒曜石	54.9	31.2	1.0	11.26

図版番号	器種	石種	法量（mm）			重さ（g）
			最大長	最大幅	最大厚	
85	鈴桶型石刃	黒曜石	78.5	23.0	10.0	8.86
86	鈴桶型石刃	黒曜石	67.5	22.2	8.2	7.33
87	鈴桶型石刃	黒曜石	57.0	22.0	12.0	7.03
88	鈴桶型石刃	黒曜石	55.5	21.6	8.5	5.04
89	鈴桶型石刃	黒曜石	48.0	19.2	6.0	3.20
90	石核	黒曜石	41.4	36.5	14.0	21.18
91	石核	黒曜石	74.0	54.0	46.0	156.00
92	石核	黒曜石	36.0	45.0	21.5	33.96
93	石核	黒曜石	36.5	30.9	17.5	18.01
94	石核	黒曜石	31.2	37.2	31.0	29.79
95	石核	黒曜石	40.5	35.6	20.5	25.11
96	石核	黒曜石	49.8	35.0	13.5	23.26
97	石核	黒曜石	43.5	33.0	20.0	27.06
98	石核	黒曜石	45.0	34.5	15.0	22.31
99	つまみ形石器	黒曜石	25.1	19.5	4.5	2.07
100	つまみ形石器	黒曜石	23.8	18.0	3.0	1.13
101	つまみ形石器	黒曜石	15.5	18.2	3.0	0.83
102	つまみ形石器	黒曜石	32.2	20.1	5.3	2.43
103	つまみ形石器	黒曜石	16.0	16.0	4.0	0.85
104	つまみ形石器	黒曜石	22.2	19.90	4.5	1.54
105	つまみ形石器	黒曜石	29.5	23.0	9.0	5.19
106	つまみ形石器	黒曜石	12.1	13.5	3.6	0.61
107	つまみ形石器	黒曜石	16.2	17.5	5.5	1.47
108	つまみ形石器	黒曜石	12.5	11.2	4.0	0.50
109	つまみ形石器	黒曜石	16.2	21.9	3.5	1.21
110	つまみ形石器	黒曜石	23.5	21.6	4.5	2.21
111	つまみ形石器	黒曜石	11.3	16.2	4.5	0.74
112	つまみ形石器	黒曜石	38.2	17.8	7.5	3.94
113	敲石	砂岩	95.2	47.0	25.5	129.01
114	敲石	硬質砂岩	78.0	71.0	40.0	287.00

第 8 表　②区縄文時代遺物包含層（Ⅲ層）出土石器観察表（2）

(3) ⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳｂ層）（第 8・9・12・16・17・29～32 図，附編 1・2）

縄文時代遺物包含地は，⑥区の東側に位置する。当包含地は本来，広範囲に及ぶものだと考えられるが，現状は各時期の今福川またはその支流などに削られている。基本層序はトレンチを南北に設定して壁面の分層を行ったが，平面的には土壌が類似しており，分層することは困難であった。そのため，縄文時代遺物包含層内で遺物に座標を付して取上げた。遺物の一部については，一括・層位などにより取上げた。尚，附編に記載している⑥区Ⅳ層は当包含層のことであり，掲載遺物点数は遺物に座標を付して取上げた点数である。縄文時代後期～晩期前半の遺物は，3,341 点が出土しており，内訳は土器 2,136 点と石器 1,205 点である。南から北へやや傾斜し，遺物の出土は標高約 4～5m前後，北部に集中する傾向にある。出土した土器は，縄文時代後期前葉の坂の下式系土器が最も多く，同期中葉～晩期前半の各期の土器も多く認められる。残存状態の傾向としては，坂の下系土器，縄文時代晩期前半の土器に良好なものが多い。また，その場で破損した時の状態を保っていたことが考えられる縄文時代晩期前半のほぼ完形の深鉢が出土している。各時期の土器の分布状況・標高に差異が見られ，場の利用の復元も可能であると考えられる。出土した石器は，薄い石刃などに微細な剥離痕が認められ，残存状態は良好なものが多い。鈴桶技法に関連するものは僅か 15 点にとどまる。各時期の土器と石器の分布状況において，坂の下式系土器と安山岩製の石器が共伴する比率がやや高い傾向が見られる。当包含地は，各時期の土器・石器の分布状況に差異が認められ，縄文時代後期～晩期前半の生活の場であった可能性が高い。

・土器（第 34～40 図，第 9～11 表，図版 4～6）

縄文時代後期～晩期の土器 2,136 点が出土しており，内訳は坂の下式系土器 703 点，縄文時代後期中葉

～晩期の土器 1,433 点である。各期の土器出土数と密度は異なり，場の利用の復元を考える上で重要な資料群である。本報告では坂の下式系土器 92 点，縄文時代後期中葉～晩期の土器 94 点を掲載する。また，上の層の影響を受けて混入したと考えられる弥生時代以降の土器 4 点，時期不明の土器 2 点を掲載する。

Ⅰ-a　1～14 は口縁部片。1 は口唇部の一部に凹点文を施す波状の口縁部片。外面に 1 条の横位沈線，縦位短沈線，穿孔を施す。2～4 は外面に 1 条または 2 条の横位沈線を施す。5 は口唇部に凹点文，外面に 2 条の横位沈線を施す。6・11 は口唇部に凹点文を施す波状の口縁部片。6 は外面に 2 条の斜位沈線を施す。11 は外面に曲線の沈線を施す。7～10・12 は外面に斜位または横位短沈線を施す。8・12 は口唇部を平坦にする。14 は外面に斜・横走条痕，穿孔を施す。15～27 は胴部片。15・16 は穿孔を施す。17～20 は外面に斜位または縦位凹線を施す。21～24 は外面に斜位または横位凹線を施す。28～33 は底部片。29・31～33 は平底を呈する。

Ⅰ-b　34～46 は口縁部片。34～43 は口唇部に凹点文を施す波状の口縁部片で外面に 1 条の横位沈線，凹点文を施す。44～45 は口唇部を平坦にする。44 は外面に斜位沈線を施す。46 は外面に凹点文を施す。47～54 は胴部片。47～50・54 は外面に凹点文を施す。49～50 は外面に 1 条の横位沈線を施す。51 は穿孔を施す。52～53 は外面に直線または曲線の沈線を施す。54 は外面に凹点文，横位沈線を施す。55～65 は底部片。55～56・60・64～65 は平底を呈する。

Ⅰ-c　66～80 は口縁部片。66～71・78～80 は口唇部に凹点文を施す波状の口縁部片。66～71 は外面に凹点文を施す。72～73 は鋸歯状の口縁部片で外面に浅い縦位または横位沈線を施す。74 は外面に斜位沈線を施す。75 は口縁部突起部で外面に曲線の沈線を施す。76 は口唇部を平坦にする。81～82 は外面に 1 条の横位または斜位沈線，凹点文を施す胴部片。83～90 は底部片。85・86・89 は平底を呈する。

Ⅰ-d　91～92 は底部片。

Ⅱ-a　93～98・102・103 は口縁部片。93・94・96・103 は口唇部を平坦にする。外面に斜位または横位沈線を施す。95 は口唇部に凹点文を施す波状の口縁部片。97 は外面に浅い斜位沈線，円形の刺突文を施す。98 は肥厚の口縁部片で外面と口唇部に刻みを施す。99～101 は口縁部～胴部屈曲部で口縁部がほぼ直立する。99 は口唇部に凹点文を施す。100・101 は外面に横位沈線または横位細沈線を施す。104 は肥厚の口縁部片で把手が欠損する。口唇部に細沈線を施す。105 は口縁部突起部と考えられ，把手が欠損する。106・107 は細い橋状把手をもつ口縁部片で把手部は未貫通である。外面に縦・横位沈線または横走条痕を施す。108 は胴部片。109～123 は底部片。116～118・121～123 は平底を呈する。122 は外面に曲線の沈線を施す。

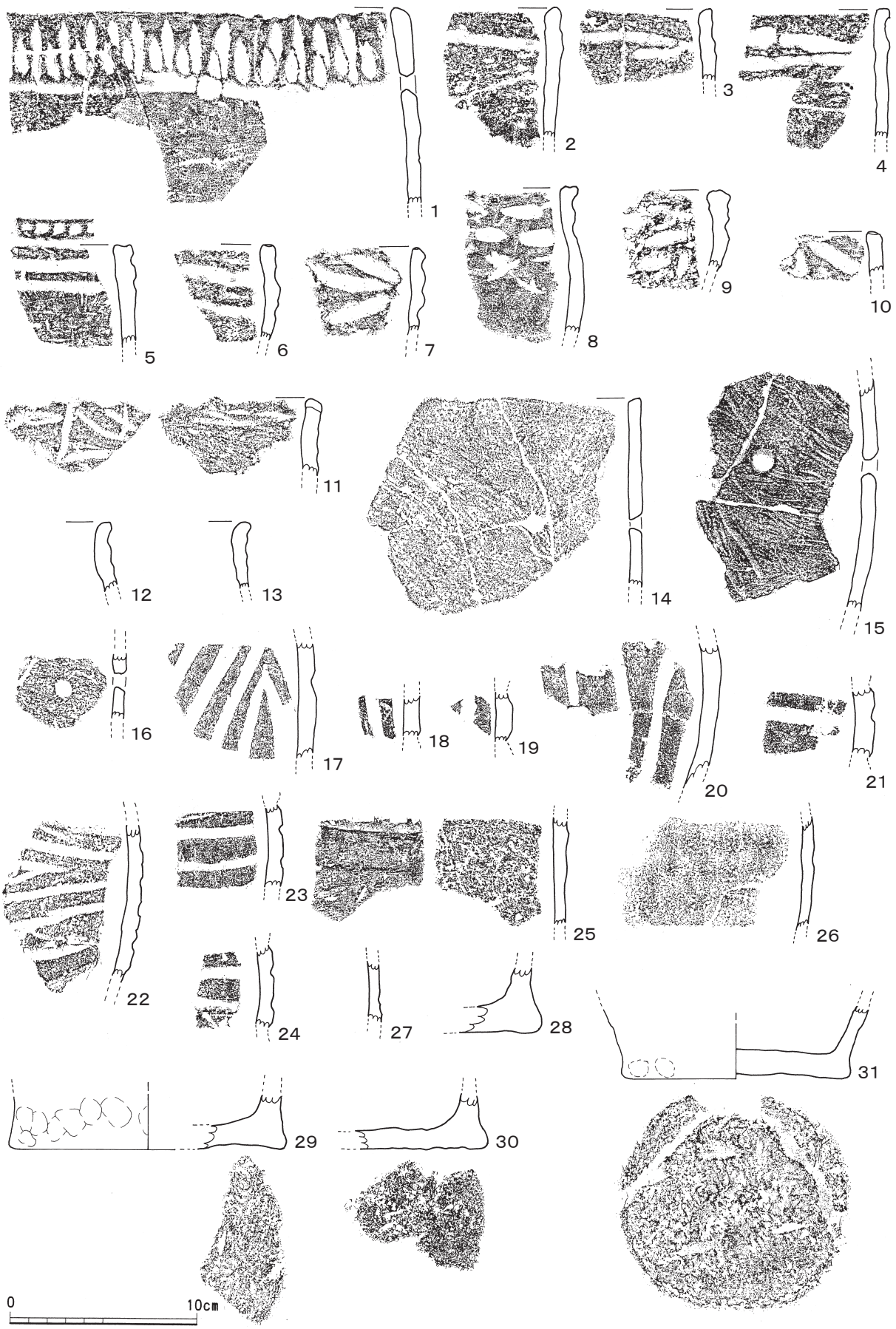
Ⅱ-b　124・125 は口縁部片。124 は口縁部端部がやや外反する。126 は底部片。

Ⅱ-e　127・128 は中空の台付鉢体部片と考えられる。突帯を一条巡らす。129 は底部片。

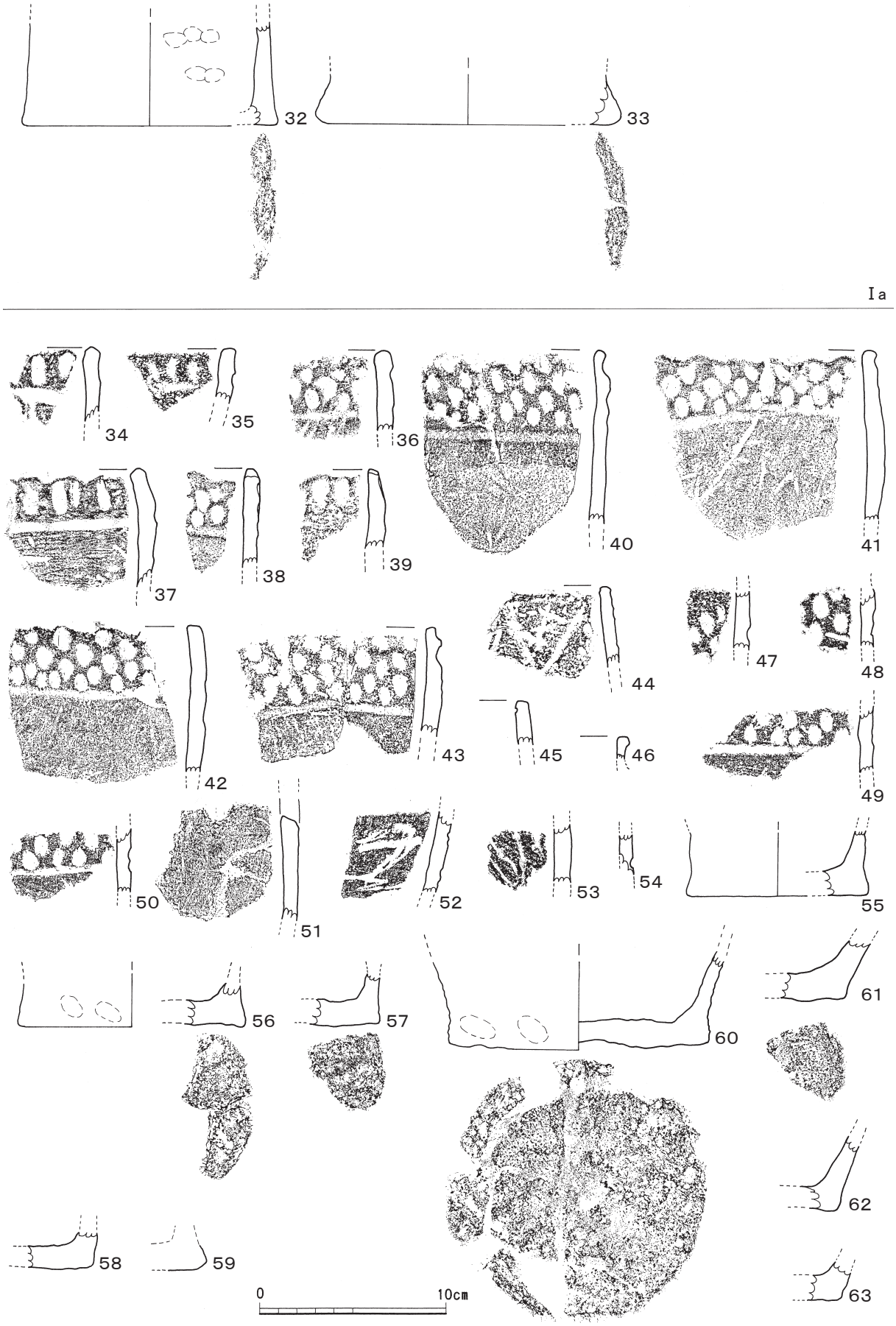
Ⅲ-a　130～134 はほぼ直立する口縁部片。132 は口唇部を平坦にする。134 は口唇部を平坦にし，内外面に横走条痕を施す。135～140 は内彎する口縁部片。138～140 は口唇部を平坦にする。141 は外方へ開く口縁部片。142・143 は内傾する口縁部片で端部がやや外反する。144・145 は頸部片で屈曲部外面に横位細沈線，刺突列点文を施す。146 は胴部片で外面に横位細沈線を施す。147 は底部片で外面に曲線の細沈線，刺突列点文を施す。

Ⅲ-b　148～150 はほぼ直立する口縁部片。150 は内面に斜・横走条痕を施す。151 は胴部片で外面に細沈線で区画した内部に刺突文を施す。152～154 は底部片である。

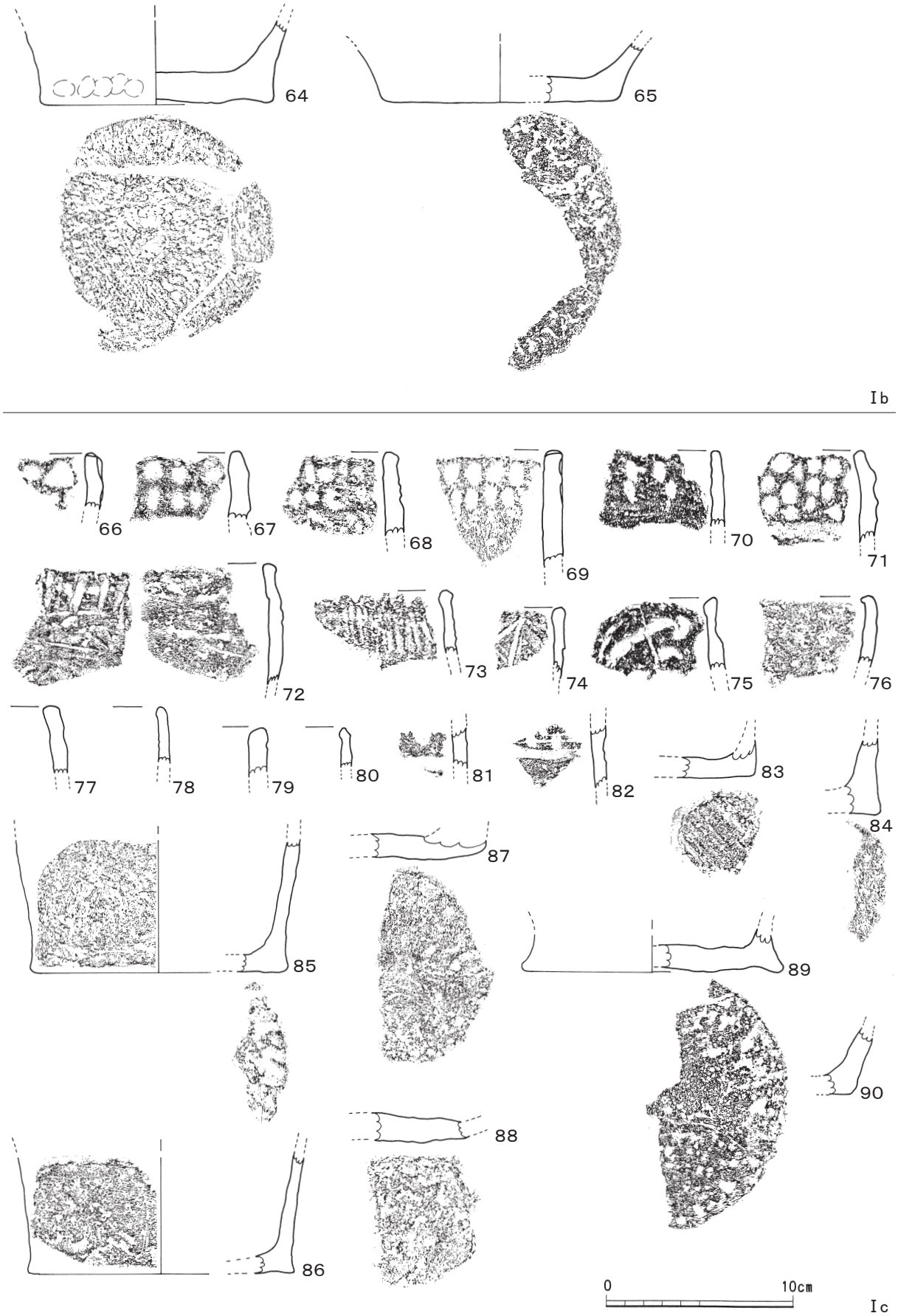
Ⅲ-c　155 はやや内傾する口縁部片。156 は外方へ開く口縁部片。



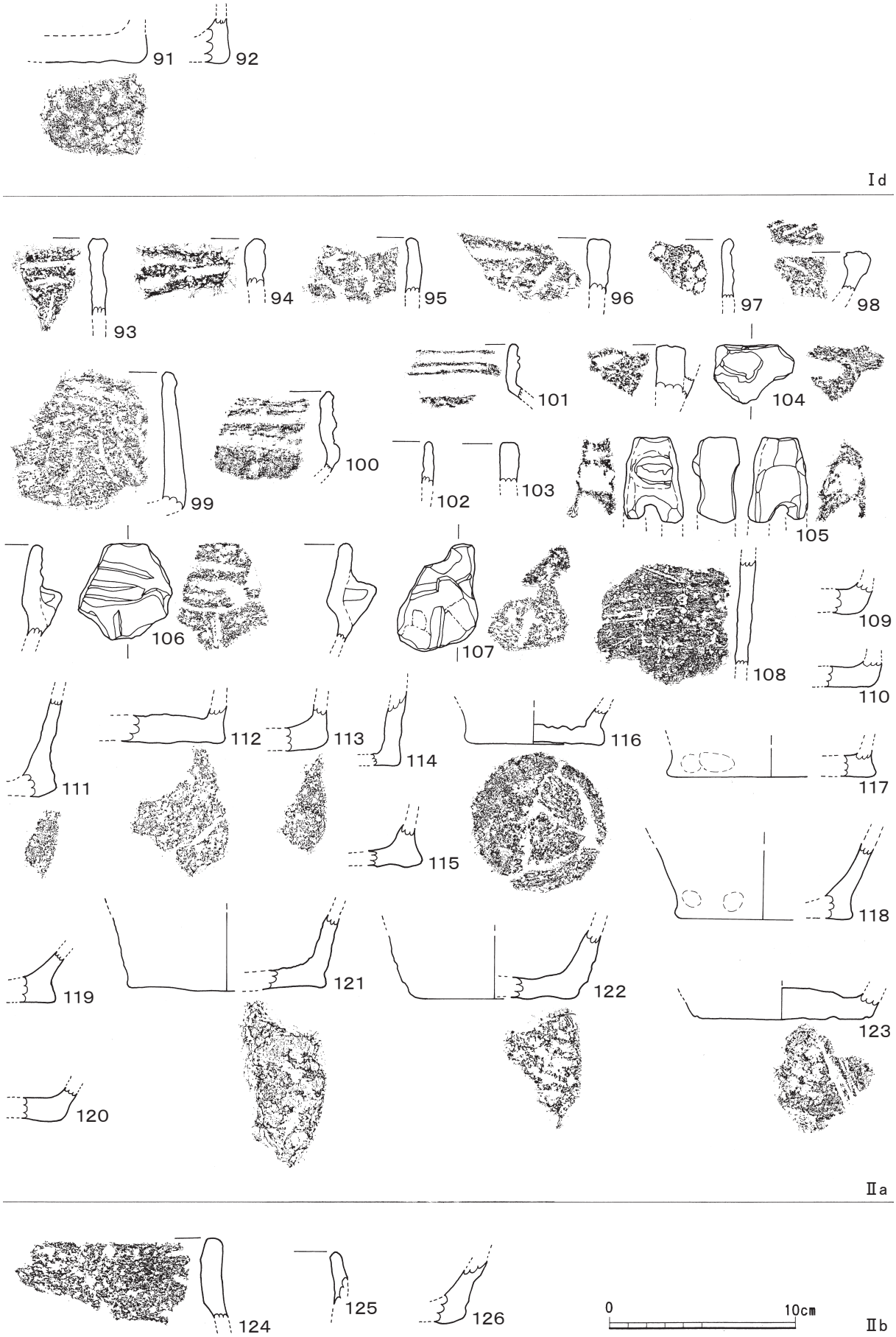
第34図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳｂ層）出土土器（1）（S=1/3）



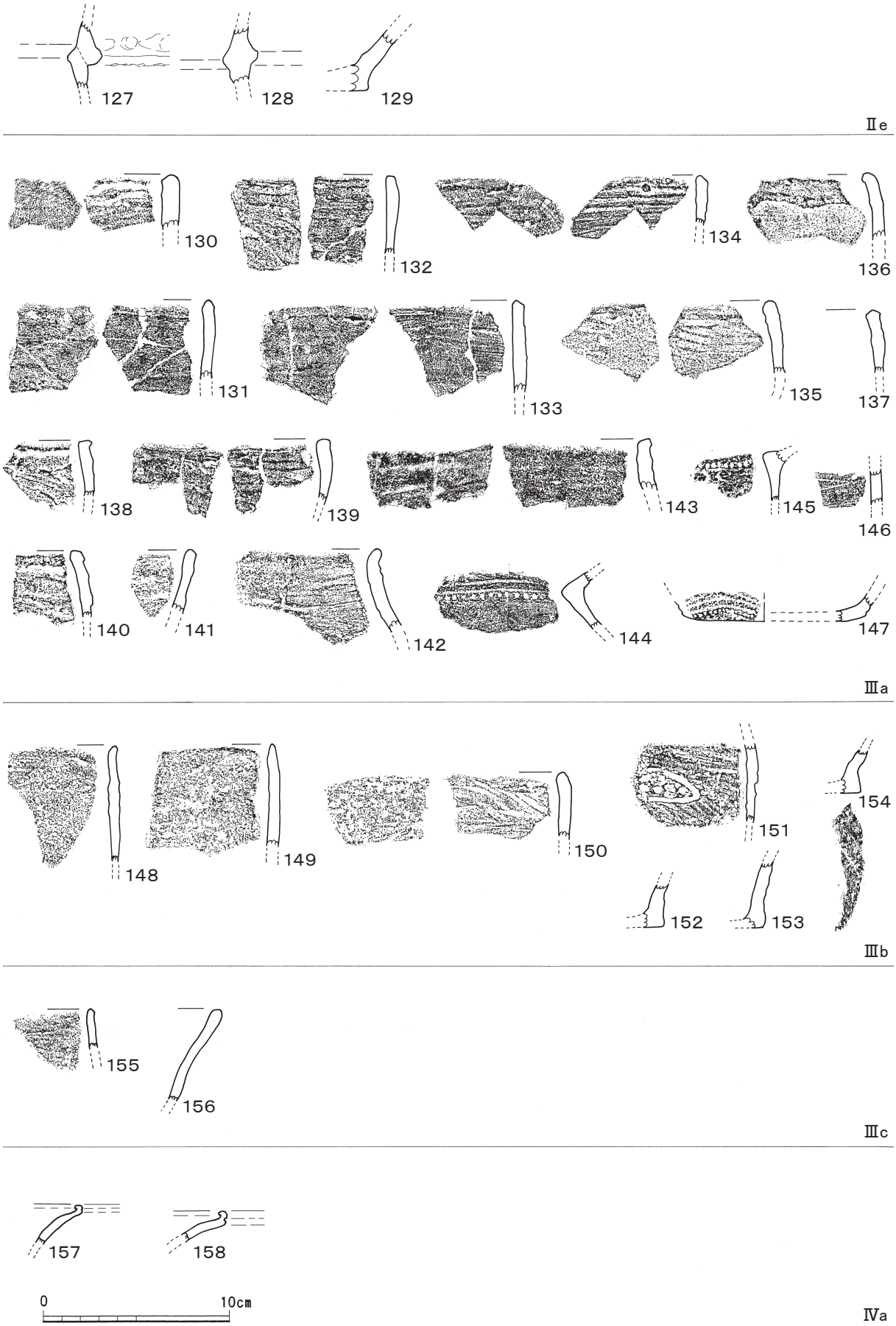
第35図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳｂ層）出土土器（2）（S=1/3）



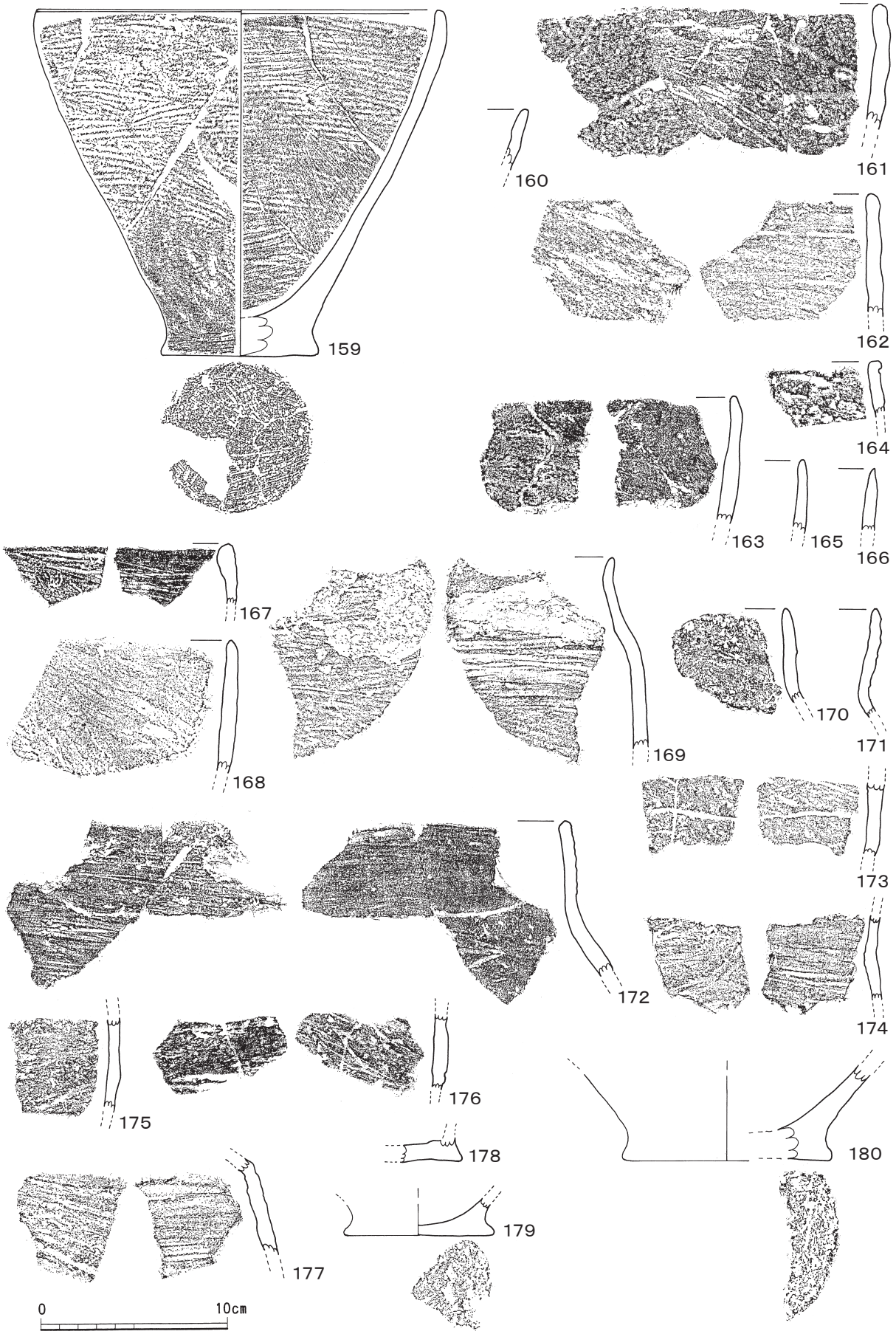
第36図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳｂ層）出土土器（3）（S＝1/3）



第37図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳb層）出土土器（4）（S=1/3）



第38図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳb層）出土土器（5）（S=1/3）



第39図　⑥区縄文時代遺物包含層（Ⅳｂ層）出土土器（6）（S=1/3）